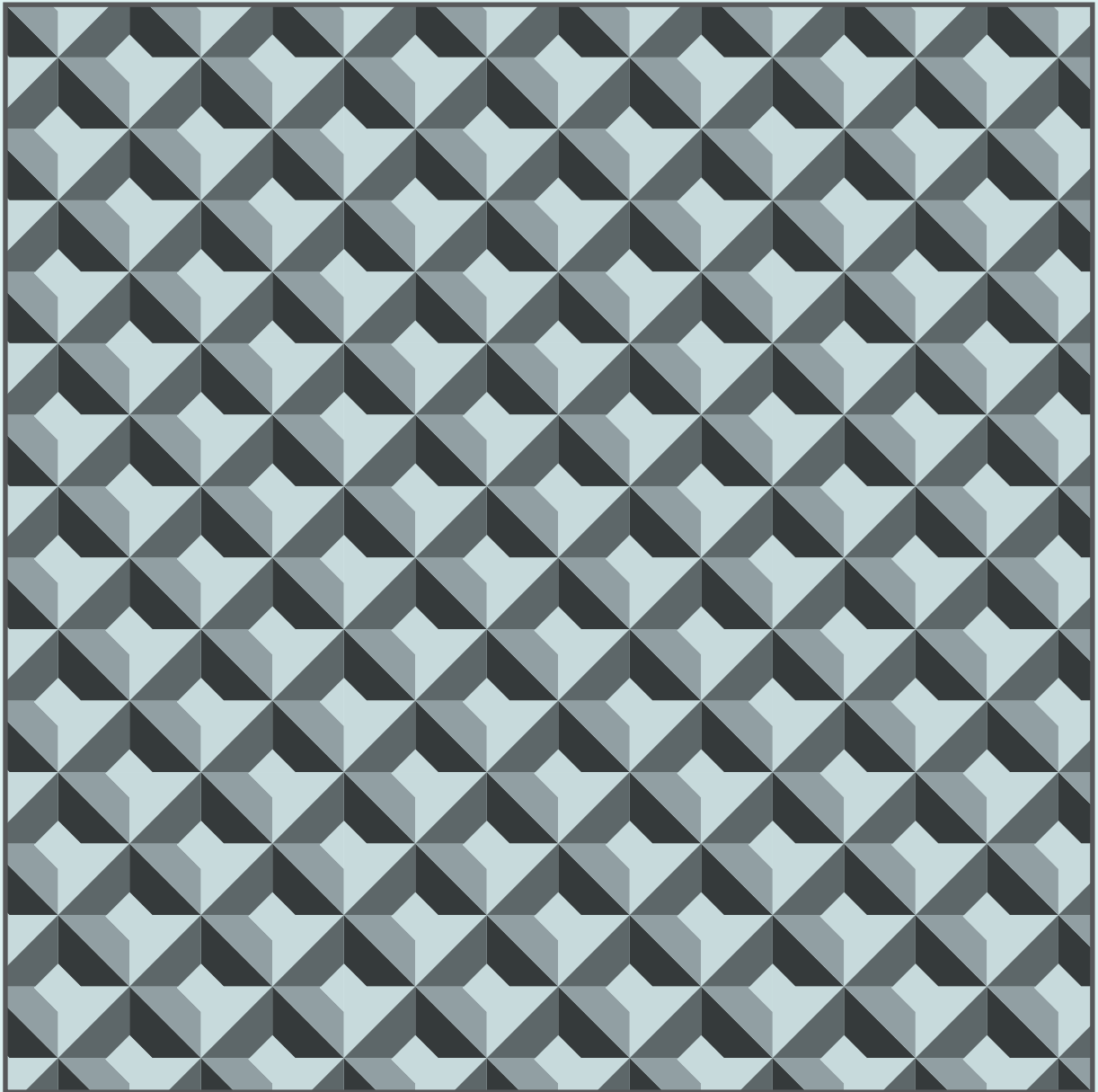

2014年度

シラバス

フランス語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

—— 総 合 目 次 ——

シラバスの見方	-----	2
---------	-------	---

2008 年度以降入学者用目次	-----	3
-----------------	-------	---

外国語学部共通科目（2006 年度以降入学者用）	-----	6
--------------------------	-------	---

担当者別授業内容	-----	7
----------	-------	---

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

独：ドイツ語学科

養(*1)：国際教養学部、スペイン語履修者

済：経済学科

英：英語学科

養(*2)：国際教養学部、中国語履修者

営：経営学科

仏：フランス語学科

養(*3)：国際教養学部、韓国語履修者

環：国際環境経済学科

交：交流文化学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

08～12年度……2008～2012年度入学者

06年度以降……2006年度以降入学者

07年度以前……2007年度以前入学者

08年度以降……2008年度以降入学者

13年度以降……2013年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

フランス語学科 授業科目(2008年度以降入学者用 目次)

学科基礎科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	7
フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	7
フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ	若森 栄樹	春	1	1	全	8
フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ	若森 栄樹	秋	1	1	全	8
フランス語Ⅰ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	9
フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	9
フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ	山崎 夏絵	春	1	1	全	10
フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ	山崎 夏絵	秋	1	1	全	10
フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	11
フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰ(LL)		春	1	1	全	12
フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	12
フランス語Ⅲ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	13
フランス語Ⅳ(文法)		秋	1	2	全	13
フランス語Ⅲ(講読)		春	1	2	全	14
フランス語Ⅳ(講読)		秋	1	2	全	14
フランス語Ⅲ(総合)		春	1	2	全	15
フランス語Ⅳ(総合)		秋	1	2	全	15
フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ		春	1	2	全	16
フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ		秋	1	2	全	16
フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ		春	1	2	全	17
フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ		秋	1	2	全	17
フランス語Ⅲ(構文)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	18
フランス語Ⅳ(構文)		秋	1	2	全	18

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス芸術文化入門Ⅰ	筒井 伸保	春	木1	2	1		19
フランス芸術文化入門Ⅱ	筒井 伸保	秋	木1	2	1		19
フランス現代社会入門Ⅰ	横地 卓哉	春	水3	2	1		20
フランス現代社会入門Ⅱ	横地 卓哉	秋	水3	2	1		20

学科共通科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	21
総合フランス語Ⅱ	授業時間割表を参照してください。	秋		2	3	全	21
フランス語文章表現法Ⅰ	C. パジェス	春	月3	2	3		22
フランス語文章表現法Ⅱ	C. パジェス	秋	月3	2	3		22
フランス語文章表現法Ⅰ	B. ファーフ	春	火2	2	3		23
フランス語文章表現法Ⅱ	B. ファーフ	秋	火2	2	3		23
フランス語文章表現法Ⅰ	C. ヴァンシンテヤン	春	火3	2	3		24
フランス語文章表現法Ⅱ	C. ヴァンシンテヤン	秋	火3	2	3		24
フランス語文章表現法Ⅰ	筒井 伸保	春	水1	2	3		25
フランス語文章表現法Ⅱ	筒井 伸保	秋	水1	2	3		25
フランス語文章表現法Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	水2	2	3		26
フランス語文章表現法Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	水2	2	3		26
フランス語文章表現法Ⅰ	津崎 良典	春	木1	2	3		27
フランス語文章表現法Ⅱ	津崎 良典	秋	木1	2	3		27
フランス語文章表現法Ⅰ	小石 悟	春	木4	2	3		28
フランス語文章表現法Ⅱ	小石 悟	秋	木4	2	3		28

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語会話Ⅰ	S. ジュンタ	春	火3	2	3		29
フランス語会話Ⅱ	S. ジュンタ	秋	火3	2	3		29
フランス語会話Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木2	2	3		30
フランス語会話Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木2	2	3		30
フランス語会話Ⅰ	J. ファヴロ	春	金2	2	3		31
フランス語会話Ⅱ	J. ファヴロ	秋	金2	2	3		31
フランス語会話Ⅰ	M. デルヴロワ	春	金3	2	3		32
フランス語会話Ⅱ	M. デルヴロワ	秋	金3	2	3		32
ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジェス	春	月2	2	3		33
ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジェス	秋	月2	2	3		33
上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木3	2	3		34
上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木3	2	3		34
フランス語圏事情Ⅰ	休講						
フランス語圏事情Ⅱ	休講						

学科専門科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	火1	2	2		35
フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	火1	2	2		35
フランス語文章理論Ⅰ	小石 悟	春	水1	2	3		36
フランス語文章理論Ⅱ	小石 悟	秋	水1	2	3		36
フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	木2	2	2		37
フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	木2	2	2		37
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	古川 直世	春	火3	2	3		38
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	古川 直世	秋	火3	2	3		38
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	PH. ヴァネ	春	月2	2	3		39
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	月2	2	3		39
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	中村 公子	春	火2	2	3		40
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	中村 公子	秋	火2	2	3		40
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	水1	2	3		41
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	水1	2	3		41
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	小石 悟	春	木3	2	3		42
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	小石 悟	秋	木3	2	3		42
フランスの美術Ⅰ	阿部 明日香	春	水1	2	2	交	43
フランスの美術Ⅱ	阿部 明日香	秋	水1	2	2	交	43
フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木2	2	2	交	44
フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木2	2	2	交	44
フランスの舞台芸術Ⅰ	江花 輝昭	春	木2	2	3		45
フランスの舞台芸術Ⅱ	江花 輝昭	秋	木2	2	3		45
フランス文学史Ⅰ	田村 毅	春	月3	2	2		46
フランス文学史Ⅱ	田村 毅	秋	月3	2	2		46
フランスの文学Ⅰ	福田 美雪	春	木3	2	3		47
フランスの文学Ⅱ	福田 美雪	秋	木3	2	3		47
フランス芸術文化各論Ⅰ	若森 栄樹	春	水1	2	3		48
フランス芸術文化各論Ⅱ	若森 栄樹	秋	水1	2	3		48
フランス芸術文化各論Ⅰ	田村 毅	春	水2	2	3		49
フランス芸術文化各論Ⅱ	田村 毅	秋	水2	2	3		49
フランス芸術文化講読Ⅰ	田村 毅	春	月2	2	3		50
フランス芸術文化講読Ⅱ	田村 毅	秋	月2	2	3		50
フランス芸術文化講読Ⅰ	阿部 明日香	春	月4	2	3		51
フランス芸術文化講読Ⅱ	阿部 明日香	秋	月4	2	3		51
フランス芸術文化講読Ⅰ	江花 輝昭	春	火2	2	3		52
フランス芸術文化講読Ⅱ	江花 輝昭	秋	火2	2	3		52
フランス芸術文化講読Ⅰ	筒井 伸保	春	火3	2	3		53
フランス芸術文化講読Ⅱ	筒井 伸保	秋	火3	2	3		53
フランス芸術文化講読Ⅰ	横地 卓哉	春	水2	2	3		54
フランス芸術文化講読Ⅱ	横地 卓哉	秋	水2	2	3		54
フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		55
フランス芸術文化講読Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		55
フランス芸術文化講読Ⅰ	福田 美雪	春	木4	2	3		56
フランス芸術文化講読Ⅱ	福田 美雪	秋	木4	2	3		56

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス地域論Ⅰ	鈴木 隆	春	水2	2	3		57
フランス地域論Ⅱ	鈴木 隆	秋	水2	2	3		57
フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	水2	2	2		58
フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	水2	2	2		58
フランスの政治経済Ⅰ	尾玉 剛士	春	月2	2	2	交	59
フランスの政治経済Ⅱ	尾玉 剛士	秋	月2	2	2	交	59
フランスの政治経済Ⅰ	廣田 愛理	春	水2	2	2	交	60
フランスの政治経済Ⅱ	廣田 愛理	秋	水2	2	2	交	60
フランス現代思想Ⅰ	若森 栄樹	春	金3	2	3		61
フランス現代思想Ⅱ	若森 栄樹	秋	金3	2	3		61
現代フランス論Ⅰ【2012年度以前入学者】 フランス語圏の現代社会Ⅰ【2013年度以前入学者】	尾玉 剛士	春	月3	2	2		62
現代フランス論Ⅱ【2012年度以前入学者】 フランス語圏の現代社会Ⅱ【2013年度以前入学者】	尾玉 剛士	秋	月3	2	2		62
フランス現代社会各論Ⅰ	PH. ヴァネ	春	水1	2	3		63
フランス現代社会各論Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	水1	2	3		63
フランス現代社会講読Ⅰ	鈴木 隆	春	月3	2	3		64
フランス現代社会講読Ⅱ	鈴木 隆	秋	月3	2	3		64
フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	火2	2	3		65
フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	火2	2	3		65
フランス現代社会講読Ⅰ	田村 毅	春	水4	2	3		66
フランス現代社会講読Ⅱ	田村 毅	秋	水4	2	3		66
フランス現代社会講読Ⅰ	廣田 愛理	春	木1	2	3		67
フランス現代社会講読Ⅱ	廣田 愛理	秋	木1	2	3		67
フランス現代社会講読Ⅰ	若森 栄樹	春	木2	2	3		68
フランス現代社会講読Ⅱ	若森 栄樹	秋	木2	2	3		68
フランス現代社会講読Ⅰ	M. デルヴロワ	春	金2	2	3		69
フランス現代社会講読Ⅱ	M. デルヴロワ	秋	金2	2	3		69

交流文化論(09年度以降入学者)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	71
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	72
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	73
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	金2	2	2	交・養・経・法	74
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養・経・法	75
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	76
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	77
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	78
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	79
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	80
交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】	倉澤 治雄	秋	金1	2	2	交・養・経・法	81
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	倉澤 治雄	秋	金2	2	2	交・養・経・法	82
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	金2	2	2	交・養・経・法	83
交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】	北野 収	秋	金3	2	2	交・養・経・法	84
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	85

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	高橋 輝暁	春	水3	2	1	養・経・法	87
総合講座	高橋 輝暁	秋	水3	2	1	養・経・法	87
総合講座	廣田 愛理	春	月2	2	1	養・経・法	88
総合講座	廣田 愛理	秋	月2	2	1	養・経・法	88
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	89
(入門)情報科学各論	各担当教員						90～92
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						93～96
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	97
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	97
(HTML)情報科学各論	各担当教員						98
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	99
経済原論a	野村 容康	春	木2	2	2	養・経・法	100
経済原論b	野村 容康	秋	木2	2	2	養・経・法	100
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	101
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	101

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

フランス語学科シラバス

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I (文法) フランス語 Ia (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週 2 回 (1 コマずつ)、既修クラスは週 1 回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。 *クラス指定科目になります。		(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで春学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。) ・冠詞 ・名詞・形容詞の男性形・女性形と単数・複数 ・形容詞の位置 ・所有形容詞 ・指示形容詞 ・疑問形容詞 ・比較級と最上級 ・直説法現在の動詞の活用 (être, avoir, -er, -ir, 不規則動詞) ・否定形と疑問形 ・否定文中の de ・冠詞の縮約 ・近接未来と近接過去 ・代名動詞 等 (順不同)	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II (文法) フランス語 Ib (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週 2 回 (1 コマずつ)、既修クラスは週 1 回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。 *クラス指定科目になります。		(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで秋学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。) ・直説法複合過去・半過去・大過去 ・直説法単純未来・前未来 ・命令法 ・受動態 ・感嘆文 ・中性代名詞 ・人称代名詞 (直接目的、間接目的、強勢形) ・関係代名詞 ・指示代名詞・所有代名詞・疑問代名詞 ・条件法 ・話法 (直接話法と間接話法) ・接続法 ・現在分詞とジェロンディフ ・使役動詞 (faire と laisser) 等 (順不同)	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I（講読）（既修クラスのみ履修） フランス語 Ia（購読）（既修クラスのみ履修）	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語で書かれた文章を文法的に正しく読めるようになることがこの授業の目的です。教科書は有名な Antoine de Saint-Exupéry の <i>le petit prince</i> です。人が生きる上でとても大切なことが親しみやすい文章で書かれています。かなり早いテンポで進んで、最後まで読み通せればと思っています。 授業は担当を決めて行うので、あつた人は必ず予習しておくこと。だいたい一人につき 1 ページ程度を訳してもらいます。また文法事項についても質問します。 わからないことがあればそのままにしないで、遠慮なく質問してください。 なおこの本は 9 歳くらいの子供を対象にしているの、この本に出てくる文法的事項および語彙は必ずマスターすべきであることを付け加えます。		1) 授業の進め方についての説明 2) 第一章 3) 第 2 章 4) 第 3 章 5) 第 4 章 6) 第 5 章 7) 第 6 章 8) 第 7 章 9) 第 8 章 10) 第 9 章 11) 第 10 章 12) 第 11 章 13) 第 12 章 14) 第 13 章 15) まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine de Saint-Exupéry, <i>le petit prince</i> , Collection Folio		期末試験と授業への積極的な参加	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II（講読）（既修クラスのみ履修） フランス語 Ib（購読）（既修クラスのみ履修）	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語で書かれた文章を文法的に正しく読めるようになることがこの授業の目的です。教科書は有名な Antoine de Saint-Exupéry の <i>le petit prince</i> です。人が生きる上でとても大切なことが親しみやすい文章で書かれています。かなり早いテンポで進んで、最後まで読み通せればと思っています。 授業は担当を決めて行うので、あつた人は必ず予習しておくこと。だいたい一人につき 1 ページ程度を訳してもらいます。また文法事項についても質問します。 わからないことがあればそのままにしないで、遠慮なく質問してください。		1) 第 14 章 2) 第 15 章 3) 第 16 章 4) 第 17 章 5) 第 18 章 6) 第 19 章 7) 第 20 章 8) 第 21 章 9) 第 22 章 10) 第 23 章 11) 第 24 章 12) 第 25 章 13) 第 26 章（1） 14) 第 26 章（2） 15) 第 27 章とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine de Saint-Exupéry, <i>le petit prince</i> , Collection Folio		期末試験と授業への積極的な参加	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I（総合） フランス語 Ia（総合）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。この授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスは「L L」、「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> を用います。既修クラスでは「L L」と同じ <i>Reflets 1</i> を使います。 未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。 既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。 進度や授業方法は担当の先生から最初の授業時に指示があります。 *クラス指定科目になります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical I</i></th><th><i>Reflets I</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>Leçon 0</td><td>Dossier 0</td></tr><tr><td>2</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>3</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>4</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>5</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>6</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>7</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>10</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>13</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr></tbody></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Leçon 0	Dossier 0	2	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1	3	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1	4	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1	5	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2	6	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2	7	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2	8	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3	9	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3	10	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3	11	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4	12	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4	13	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4	14	まとめ	まとめ	15	まとめ	まとめ
	<i>Amical I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	Leçon 0	Dossier 0																																																	
2	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1																																																	
3	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1																																																	
4	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1																																																	
5	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2																																																	
6	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2																																																	
7	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2																																																	
8	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3																																																	
9	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3																																																	
10	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3																																																	
11	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4																																																	
12	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4																																																	
13	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4																																																	
14	まとめ	まとめ																																																	
15	まとめ	まとめ																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II (総合) フランス語 Ib (総合)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。この授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Reflets 1</i> を使います。 未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。 既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。 進度や授業方法は担当の先生から最初の授業時に指示があります。 *クラス指定科目になります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical I</i></th><th><i>Reflets I</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>春学期の復習</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>2</td><td>Unité 3-Leçon 9~10</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>3</td><td>Unité 3-Leçon 9~10</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>4</td><td>Unité 3-Leçon 9~10</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>5</td><td>Unité 3-Leçon 11~12</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>6</td><td>Unité 3-Leçon 11~12</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>7</td><td>Unité 3-Leçon 11~12</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 4-Leçon 13~14</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 4-Leçon 13~14</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>10</td><td>Unité 4-Leçon 13~14</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 4-Leçon 15~16</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 4-Leçon 15~16</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>13</td><td>Unité 4-Leçon 15~16</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr></tbody></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical I</i>	<i>Reflets I</i>	1	春学期の復習	Dossier 5	2	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5	3	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5	4	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5	5	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6	6	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6	7	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6	8	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 6	9	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 7	10	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 7	11	Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 7	12	Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 7	13	Unité 4-Leçon 15~16	まとめ	14	まとめ	まとめ	15	まとめ	まとめ
	<i>Amical I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	春学期の復習	Dossier 5																																																	
2	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5																																																	
3	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5																																																	
4	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5																																																	
5	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6																																																	
6	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6																																																	
7	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6																																																	
8	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 6																																																	
9	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 7																																																	
10	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 7																																																	
11	Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 7																																																	
12	Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 7																																																	
13	Unité 4-Leçon 15~16	まとめ																																																	
14	まとめ	まとめ																																																	
15	まとめ	まとめ																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ia (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
授業は、様々なテーマに関する文章の聞き取り練習を中心に行います。それぞれの文章内で使われている語彙や構文についても学習し、毎回小テストを行います。		各回のテーマ 1. ガイダンス 2. la vie quotidienne (1) 3. la vie quotidienne (2) 4. la vie quotidienne (3) 5. le logement (1) 6. le logement (2) 7. les achats (1) 8. les achats (2) 9. les achats (3) 10. le déplacement (1) 11. le déplacement (2) 12. le temps libre (1) 13. le temps libre (2) 14. le temps libre (3) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用		期末試験と授業への参加貢献度	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ia (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様		各回のテーマ 1. ガイダンス 2. la vie professionnelle (1) 3. la vie professionnelle (2) 4. la vie professionnelle (3) 5. l'environnement (1) 6. l'environnement (2) 7. les médias (1) 8. les médias (2) 9. les médias (3) 10. la gastronomie (1) 11. la gastronomie (2) 12. la francophonie 13. le monde (1) 14. le monde (2) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用		期末試験と授業への参加貢献度	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ia (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」、「L L」と連動して同じ教科書 <i>Amical 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		<i>Amical I</i> 1 Leçon 0 2 Unité 1-Leçon 1~2 3 Unité 1-Leçon 1~2 4 Unité 1-Leçon 1~2 5 Unité 1-Leçon 3~4 6 Unité 1-Leçon 3~4 7 Unité 1-Leçon 3~4 8 Unité 2-Leçon 5~6 9 Unité 2-Leçon 5~6 10 Unité 2-Leçon 5~6 11 Unité 2-Leçon 7~8 12 Unité 2-Leçon 7~8 13 Unité 2-Leçon 7~8 14 まとめ 15 まとめ 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Amical 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ib (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」、「L L」と連動して同じ教科書 <i>Amical 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		<i>Amical I</i> 1 春学期の復習 2 Unité 3-Leçon 9~10 3 Unité 3-Leçon 9~10 4 Unité 3-Leçon 9~10 5 Unité 3-Leçon 11~12 6 Unité 3-Leçon 11~12 7 Unité 3-Leçon 11~12 8 Unité 4-Leçon 13~14 9 Unité 4-Leçon 13~14 10 Unité 4-Leçon 13~14 11 Unité 4-Leçon 15~16 12 Unité 4-Leçon 15~16 13 Unité 4-Leçon 15~16 14 まとめ 15 まとめ 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Amical 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I (LL) フランス語 Ia (LL)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i>、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Reflets 1</i> を使用します。どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。授業の進め方については各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical I</i></th><th><i>Reflets I</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>Leçon 0</td><td>Dossier 0</td></tr><tr><td>2</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>3</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>4</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>5</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>6</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>7</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>10</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>13</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr></tbody></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Leçon 0	Dossier 0	2	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1	3	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1	4	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1	5	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2	6	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2	7	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2	8	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3	9	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3	10	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3	11	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4	12	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4	13	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4	14	まとめ	まとめ	15	まとめ	まとめ
	<i>Amical I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	Leçon 0	Dossier 0																																																	
2	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1																																																	
3	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1																																																	
4	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1																																																	
5	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2																																																	
6	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2																																																	
7	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2																																																	
8	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3																																																	
9	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3																																																	
10	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 3																																																	
11	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4																																																	
12	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4																																																	
13	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 4																																																	
14	まとめ	まとめ																																																	
15	まとめ	まとめ																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス : <i>Amical 1</i> 既修クラス : <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II (LL) フランス語 Ib (LL)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i>、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Reflets 1</i> を使用します。どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。授業の進め方については各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical I</i></th><th><i>Reflets I</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>春学期の復習</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>2</td><td>Unité 3-Leçon 9~10</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>3</td><td>Unité 3-Leçon 9~10</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>4</td><td>Unité 3-Leçon 9~10</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>5</td><td>Unité 3-Leçon 11~12</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>6</td><td>Unité 3-Leçon 11~12</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>7</td><td>Unité 3-Leçon 11~12</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 4-Leçon 13~14</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 4-Leçon 13~14</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>10</td><td>Unité 4-Leçon 13~14</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 4-Leçon 15~16</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 4-Leçon 15~16</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>13</td><td>Unité 4-Leçon 15~16</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr></tbody></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical I</i>	<i>Reflets I</i>	1	春学期の復習	Dossier 5	2	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5	3	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5	4	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5	5	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6	6	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6	7	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6	8	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 6	9	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 7	10	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 7	11	Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 7	12	Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 7	13	Unité 4-Leçon 15~16	まとめ	14	まとめ	まとめ	15	まとめ	まとめ
	<i>Amical I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	春学期の復習	Dossier 5																																																	
2	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5																																																	
3	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5																																																	
4	Unité 3-Leçon 9~10	Dossier 5																																																	
5	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6																																																	
6	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6																																																	
7	Unité 3-Leçon 11~12	Dossier 6																																																	
8	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 6																																																	
9	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 7																																																	
10	Unité 4-Leçon 13~14	Dossier 7																																																	
11	Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 7																																																	
12	Unité 4-Leçon 15~16	Dossier 7																																																	
13	Unité 4-Leçon 15~16	まとめ																																																	
14	まとめ	まとめ																																																	
15	まとめ	まとめ																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス : <i>Amical 1</i> 既修クラス : <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III (文法) フランス語 IIa (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は初級文法を習得した学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。既修クラス、未修クラスともに週 1 回の授業です。 使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 IV (文法) フランス語 IIb (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は初級文法を習得した学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。既修クラス、未修クラスともに週 1 回の授業です。 使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III（講読） フランス語 IIa（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語で書かれた簡単なテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。 使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 IV（講読） フランス語 IIb（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語で書かれた簡単なテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。 使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III（総合） フランス語 IIa（総合）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i>、既修クラスでは <i>Reflets 2</i> を使用し、未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		<table><tr><td></td><td><i>Champion 1</i></td><td><i>Reflets 1</i></td></tr><tr><td>1</td><td>Unité10 までの復習</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>2</td><td>Unité 11</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>3</td><td>Unité 11</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>4</td><td>Unité 12</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>5</td><td>Unité 12</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>6</td><td>Bilan 3</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>7</td><td>Bilan 3</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 13</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 13</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>10</td><td>Unité 14</td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 14</td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 15</td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>13</td><td>Unité 15</td><td>Dossier 12</td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>	1	Unité10 までの復習	Dossier 8	2	Unité 11	Dossier 8	3	Unité 11	Dossier 8	4	Unité 12	Dossier 9	5	Unité 12	Dossier 9	6	Bilan 3	Dossier 9	7	Bilan 3	Dossier 10	8	Unité 13	Dossier 10	9	Unité 13	Dossier 10	10	Unité 14	Dossier 11	11	Unité 14	Dossier 11	12	Unité 15	Dossier 11	13	Unité 15	Dossier 12	14	まとめ	まとめ	15	まとめ	まとめ
	<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>																																																	
1	Unité10 までの復習	Dossier 8																																																	
2	Unité 11	Dossier 8																																																	
3	Unité 11	Dossier 8																																																	
4	Unité 12	Dossier 9																																																	
5	Unité 12	Dossier 9																																																	
6	Bilan 3	Dossier 9																																																	
7	Bilan 3	Dossier 10																																																	
8	Unité 13	Dossier 10																																																	
9	Unité 13	Dossier 10																																																	
10	Unité 14	Dossier 11																																																	
11	Unité 14	Dossier 11																																																	
12	Unité 15	Dossier 11																																																	
13	Unité 15	Dossier 12																																																	
14	まとめ	まとめ																																																	
15	まとめ	まとめ																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 IV（総合） フランス語 IIb（総合）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i>、既修クラスでは <i>Reflets 2</i> を使用し、未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		<table><tr><td></td><td><i>Champion 1 & 2</i></td><td><i>Reflets 2</i></td></tr><tr><td>1</td><td>Unité 16</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>2</td><td>Unité 16</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>3</td><td>Bilan 6</td><td>Dossier 1</td></tr><tr><td>4</td><td>Bilan 6</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>5</td><td><i>Champion 2</i> Unité 1</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>6</td><td><i>Champion 2</i> Unité 1</td><td>Dossier 2</td></tr><tr><td>7</td><td>Unité 2</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 2</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 3</td><td>Dossier 3</td></tr><tr><td>10</td><td>Unité 3</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>11</td><td>Bilan 1</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 4</td><td>Dossier 4</td></tr><tr><td>13</td><td>Unité 4</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr></table> 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Champion 1 & 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 16	Dossier 1	2	Unité 16	Dossier 1	3	Bilan 6	Dossier 1	4	Bilan 6	Dossier 2	5	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2	6	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2	7	Unité 2	Dossier 3	8	Unité 2	Dossier 3	9	Unité 3	Dossier 3	10	Unité 3	Dossier 4	11	Bilan 1	Dossier 4	12	Unité 4	Dossier 4	13	Unité 4	まとめ	14	まとめ	まとめ	15	まとめ	まとめ
	<i>Champion 1 & 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 16	Dossier 1																																																	
2	Unité 16	Dossier 1																																																	
3	Bilan 6	Dossier 1																																																	
4	Bilan 6	Dossier 2																																																	
5	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2																																																	
6	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2																																																	
7	Unité 2	Dossier 3																																																	
8	Unité 2	Dossier 3																																																	
9	Unité 3	Dossier 3																																																	
10	Unité 3	Dossier 4																																																	
11	Bilan 1	Dossier 4																																																	
12	Unité 4	Dossier 4																																																	
13	Unité 4	まとめ																																																	
14	まとめ	まとめ																																																	
15	まとめ	まとめ																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1, 2</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 IIa (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業ではヒアリング能力を伸ばすことを目指します。フランス語が聞き取れるようになるためには様々な要素を伸ばす必要があります。たとえば、文法力は勿論ですが、語彙力、話されている物・事に関する知識（一般教養）など。教材は Podcast で聞ける中級向けのヒアリング教材 Chocolat を用います。ノーマル・スピードのインタビューが中心なので、12月に受験する TCF（フランス語能力検定試験）の準備にもなります。		第1回 ガイダンス 第2回 その週にアップロードされた Chocolat 第3回 その週にアップロードされた Chocolat 第4回 その週にアップロードされた Chocolat 第5回 その週にアップロードされた Chocolat 第6回 その週にアップロードされた Chocolat 第7回 その週にアップロードされた Chocolat 第8回 その週にアップロードされた Chocolat 第9回 その週にアップロードされた Chocolat 第10回 その週にアップロードされた Chocolat 第11回 その週にアップロードされた Chocolat 第12回 その週にアップロードされた Chocolat 第13回 その週にアップロードされた Chocolat 第14回 その週にアップロードされた Chocolat 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		試験	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 IV (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 IIb (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業目的は春学期と同じです。教材は少しレベルアップして、やはり Podacst で聞ける TV5 のニュースを用います。世界各地で起こっている出来事について、フランス語でどう報道されているかを理解できるようになることを目指します。		第1回 ガイダンス 第2回 その週にアップロードされた TV5 第3回 その週にアップロードされた TV5 第4回 その週にアップロードされた TV5 第5回 その週にアップロードされた TV5 第6回 その週にアップロードされた TV5 第7回 その週にアップロードされた TV5 第8回 その週にアップロードされた TV5 第9回 その週にアップロードされた TV5 第10回 その週にアップロードされた TV5 第11回 その週にアップロードされた TV5 第12回 その週にアップロードされた TV5 第13回 その週にアップロードされた TV5 第14回 その週にアップロードされた TV5 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		試験	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIa (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティヴスピーカーが担当し、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。 教科書は、「総合」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		<i>Champion 1</i> - Unité10 までの復習 - Unité 11 - Unité 11 - Unité 12 - Unité 12 - Bilan 3 - Bilan 3 - Unité 13 - Unité 13 - Unité 14 - Unité 14 - Unité 15 - Unité 15 - まとめ - まとめ 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1, 2</i>		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 III (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIa (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティヴスピーカーが担当し、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。 教科書は、「総合」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。 *クラス指定科目になります。		<i>Champion 1 & 2</i> - Unité 16 - Unité 16 - Bilan 6 - Bilan 6 <i>Champion 2</i> Unité 1 <i>Champion 2</i> Unité 1 - Unité 2 - Unité 2 - Unité 3 - Unité 3 - Bilan 1 - Unité 4 - Unité 4 - まとめ - まとめ 原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1, 2</i>		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 06～07 年度	フランス語 III（構文） フランス語 IIa（文章表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。 必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。 具体的な授業の進め方等については各担当教員から最初に説明があります。 *クラス指定科目になります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 06～07 年度	フランス語 IV（構文） フランス語 IIb（文章表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。 必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。 具体的な授業の進め方等については各担当教員から最初に説明があります。 *クラス指定科目になります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化入門Ⅰ フランス文学概論 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、フランスの芸術文化に関する基礎知識の習得、そして「フランス芸術文化」部門の専門科目への導入 を目的としています。そのため、フランスの芸術・文化に ついて、広範なテーマを概括的に学んでいきます。 「フランス芸術文化入門Ⅰ」(春学期)では、歴史・文学・音楽・美術の各分野のトピックスを学びます。1年生を主な対象者とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを活用し、フランスならではの魅力に富んだ芸術文化に親しむ入口を開きます。 この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以上のことを了承した上で受講してください。 初回に詳細を説明するので、必ず出席すること。		1. ガイダンス (筒井伸保) 2. フランスの歴史1 (藤田朋久) 3. フランスの歴史2 (藤田朋久) 4. 19世紀フランス文学:「カルメン」の広がり1 (伊藤幸次) 5. 19世紀フランス文学:「カルメン」の広がり2 (伊藤幸次) 6. 19世紀フランス文学:「カルメン」の広がり3 (伊藤幸次) 7. フランスのピアノ曲1 (松橋麻利) 8. フランスのピアノ曲2 (松橋麻利) 9. フランスの美術館と美術1 (阿部明日香) 10. フランスの美術館と美術2 (阿部明日香) 11. フランスの美術館と美術3 (阿部明日香) 12. 大衆文学1 (筒井伸保) 13. 大衆文学2 (筒井伸保) 14. 大衆文学3 (筒井伸保) 15. まとめ (筒井伸保)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントなど。 参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験 (8割程度) に授業への参加度を加味する (2割程度)。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化入門Ⅱ フランス文学概論 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は上記参照。 「フランス芸術文化入門Ⅱ」(秋学期)では、フランスの思想、メディア、食文化の豊かさやフランコフォニー(フランス語圏)の文化など、いずれもフランスの過去と現在をつなぐ重要なテーマについて学んでいきます。 1年生を主な対象者とするので、視覚資料などを活用し、分かりやすくフランス芸術文化の全体像を提示します。全講義を通して、それぞれのテーマは別個に存在するのではなく、豊かに広がる文化の地平としてつながり、現在のフランスを形作っていることが理解されるでしょう。 この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以上のことを了承した上で受講してください。 初回に詳細を説明するので、必ず出席すること。		1. ガイダンス (筒井伸保) 2. フランスの思想1 (若森榮樹) 3. フランスの思想2 (若森榮樹) 4. フランスの思想3 (若森榮樹) 5. フランスの思想4 (若森榮樹) 6. メディアと文学1 (福田美雪) 7. メディアと文学2 (福田美雪) 8. メディアと文学3 (福田美雪) 9. メディアと文学4 (福田美雪) 10. フランスの食文化1 (江花輝昭) 11. フランスの食文化2 (江花輝昭) 12. フランスの食文化3 (江花輝昭) 13. フランコフォニー1 (フィリップ・ヴァネ) 14. フランコフォニー2 (フィリップ・ヴァネ) 15. まとめ (筒井伸保)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントなど。 参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験 (8割程度) に授業への参加度を加味する (2割程度)。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会入門 I フランス文化・社会概論 a	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
現代フランス社会を理解するために必要な基礎知識を習得し、分析および見解の提示ができるようにすることを目標とします。授業は複数の教員によるオムニバス形式で行います。 一回目の授業では簡単なガイダンスのあと図書館セミナー（図書館の蔵書・各種データベースの検索方法などの説明）を行います。実習をとみなうため、他の回とはことなる教室（複数）を使用します。別掲の指示に従って授業開始時刻までに指定された教室に入室・着席してください。 出席カードによる出席管理を行い、出席状況が悪い場合は相応の減点をします。遅刻者にはカードを配布しません。 この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する場合には、このことを了承したうえで登録・履修してください。		1. ガイダンス (横地卓哉) 図書館セミナー 2. フランスの地域 (鈴木隆) 3. フランスの地域 (鈴木隆) 4. フランスの地域 (鈴木隆) 5. フランスの地域 (鈴木隆) 6. フランス語と世界 (田中善英) 7. フランス語と世界 (田中善英) 8. フランス語と世界 (田中善英) 9. フランスの教育と生活 (中村公子) 10. フランスの教育と生活 (中村公子) 11. フランスの教育と生活 (中村公子) 12. フランスの社会と文学 (田村毅) 13. フランスの社会と文学 (田村毅) 14. フランスの地方生活 (水林ミシェル) 15. まとめ (横地卓哉)	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。参考文献は教室で指示する。		基本的には学期末に実施される試験の成績による。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会入門 II フランス文化・社会概論 b	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		1. ガイダンス (横地卓哉) 2. フランスの政治経済 (廣田愛理) 3. フランスの政治経済 (廣田愛理) 4. フランスの政治経済 (廣田愛理) 5. フランスの社会保障 (尾玉剛士) 6. フランスの社会保障 (尾玉剛士) 7. 講演会 8. フランスの祝祭 (小石悟) 9. フランスの祝祭 (小石悟) 10. フランスの祝祭 (小石悟) 11. パリ (横地卓哉) 12. パリ (横地卓哉) 13. パリ (横地卓哉) 14. パリ (横地卓哉) 15. まとめ (横地卓哉)	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。参考文献は教室で指示する。		基本的には学期末に実施される試験の成績による。	

08 年度以降 07 年度以前	総合フランス語 I 総合フランス語 a	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 5 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion 2</i> à partir de l'unité 5. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite. <u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.		<table><thead><tr><th></th><th><i>Champion 2</i></th><th><i>Reflets 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>Unité 5</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>2</td><td>Unité 5</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>3</td><td>Unité 5</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>4</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>5</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>6</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>7</td><td>Bilan 2</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 7</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 7</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>10</td><td>Unité 7</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 8</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 8</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>13</td><td>Unité 8</td><td>Révision</td></tr><tr><td>14</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr><tr><td>15</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></tbody></table> Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 7 (<i>Champion</i>).			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 5	Dossier 5	2	Unité 5	Dossier 5	3	Unité 5	Dossier 5	4	Unité 6	Dossier 6	5	Unité 6	Dossier 6	6	Unité 6	Dossier 6	7	Bilan 2	Dossier 7	8	Unité 7	Dossier 7	9	Unité 7	Dossier 7	10	Unité 7	Dossier 8	11	Unité 8	Dossier 8	12	Unité 8	Dossier 8	13	Unité 8	Révision	14	Révision	Révision	15	Révision	Révision
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 5	Dossier 5																																																	
2	Unité 5	Dossier 5																																																	
3	Unité 5	Dossier 5																																																	
4	Unité 6	Dossier 6																																																	
5	Unité 6	Dossier 6																																																	
6	Unité 6	Dossier 6																																																	
7	Bilan 2	Dossier 7																																																	
8	Unité 7	Dossier 7																																																	
9	Unité 7	Dossier 7																																																	
10	Unité 7	Dossier 8																																																	
11	Unité 8	Dossier 8																																																	
12	Unité 8	Dossier 8																																																	
13	Unité 8	Révision																																																	
14	Révision	Révision																																																	
15	Révision	Révision																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																																	

08 年度以降 07 年度以前	総合フランス語 II 総合フランス語 b	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 5 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion 2</i> à partir de l'unité 5. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.		<table><thead><tr><th></th><th><i>Champion 2</i></th><th><i>Reflets 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>2</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>3</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>4</td><td>Bilan 3</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>5</td><td>Unité 10</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>6</td><td>Unité 10</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>7</td><td>Unité 10</td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>8</td><td>Unité 11</td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>9</td><td>Unité 11</td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>10</td><td>Unité 11</td><td>Dossier 12</td></tr><tr><td>11</td><td>Unité 12</td><td>Dossier 12</td></tr><tr><td>12</td><td>Unité 12</td><td>Dossier 12</td></tr><tr><td>13</td><td>Unité 12</td><td>Révision</td></tr><tr><td>14</td><td>Bilan 4</td><td>Révision</td></tr><tr><td>15</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></tbody></table> Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 10 ou 11 (<i>Champion</i>).			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 9	Dossier 9	2	Unité 9	Dossier 9	3	Unité 9	Dossier 9	4	Bilan 3	Dossier 10	5	Unité 10	Dossier 10	6	Unité 10	Dossier 10	7	Unité 10	Dossier 11	8	Unité 11	Dossier 11	9	Unité 11	Dossier 11	10	Unité 11	Dossier 12	11	Unité 12	Dossier 12	12	Unité 12	Dossier 12	13	Unité 12	Révision	14	Bilan 4	Révision	15	Révision	Révision
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 9	Dossier 9																																																	
2	Unité 9	Dossier 9																																																	
3	Unité 9	Dossier 9																																																	
4	Bilan 3	Dossier 10																																																	
5	Unité 10	Dossier 10																																																	
6	Unité 10	Dossier 10																																																	
7	Unité 10	Dossier 11																																																	
8	Unité 11	Dossier 11																																																	
9	Unité 11	Dossier 11																																																	
10	Unité 11	Dossier 12																																																	
11	Unité 12	Dossier 12																																																	
12	Unité 12	Dossier 12																																																	
13	Unité 12	Révision																																																	
14	Bilan 4	Révision																																																	
15	Révision	Révision																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																																	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	C. パジエス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes variés (littérature, cinéma, cuisine, voyages, société, etc). この文章表現クラスは、フランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常に役立つ表現などを学びます。また、文学・映画・料理・旅行・社会問題など、さまざまなテーマに沿った文章作成も行います。 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を春学期で扱います。(変更あり) 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 1 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 2 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 3 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 4 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 5 15. Composition finale	
テキスト、参考文献		評価方法	
書名 : Écrire en français (フランス語で書く)、 著者 : Jean-Luc Azra, ISBN : 978-4-905343-09-7		平常点 70%、授業への参加態度 30%	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	C. パジエス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes variés (littérature, cinéma, cuisine, voyages, société, etc). この文章表現クラスは、フランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常に役立つ表現などを学びます。また、文学・映画・料理・旅行・社会問題など、さまざまなテーマに沿った文章作成も行います。 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を秋学期で扱います。(変更あり) 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 6 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 7 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 8 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 9 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 10 15. Composition finale	
テキスト、参考文献		評価方法	
書名 : Écrire en français (フランス語で書く)、 著者 : Jean-Luc Azra, ISBN : 978-4-905343-09-7		平常点 70%、授業への参加態度 30%	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	B. ファイフ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif d'apprendre à écrire le français sous diverses formes, comme par exemple l'écriture de lettres, de courriels, d'histoires et de scénarios, sur des sujets divers, comme les loisirs, les voyages, la société et le cinéma . Il sera aussi mis l'accent sur la lecture, celle-ci étant étroitement liée à l'apprentissage de l'écriture.		1. Introduction 2. Correspondance : lettre (familier) 3. Correspondance : lettre (formel) 4. Correspondance : courriel (familier) 5. Correspondance : courriel (formel) 6. Raconter : histoire 1 7. Raconter : histoire 2 8. Scénario : 1 9. Scénario : 2 10. Bande dessinée 11. Donner son opinion 12. Donner son opinion 13. Littérature française 14. Synthèse 15. Synthèse Des exercices d'écriture seront donnés à faire pendant le cours, et aussi d'écriture et de lecture pour chaque cours.	
テキスト、参考文献		評価方法	
ECRIRE en français niveau A2/B1 Alma éditeur 2013 J.-L. Azra Apporter un DICTIONNAIRE.		Contrôle continu. Un test à la fin du trimestre.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	B. ファイフ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours reprendra les mêmes formes d'écriture qu'au premier trimestre, en changeant les sujets. Comme au premier trimestre, il aura pour objectif d'apprendre à écrire le français sous diverses formes, comme par exemple l'écriture de lettres, de courriels, d'histoires et de scénarios, et sur des sujets divers, comme les loisirs, les voyages, la société et le cinéma .		1. Introduction au cours 2. Correspondance : lettre (familier) 3. Correspondance : lettre (formel) 4. Correspondance : courriel (familier) 5. Correspondance : courriel (formel) 6. Raconter : histoire 1 7. Raconter : histoire 2 8. Scénario : 1 9. Scénario : 2 10. Bande dessinée 11. Donner son opinion 12. Donner son opinion 13. Littérature française 14. Synthèse 15. Synthèse Des exercices d'écriture seront donnés à faire pendant le cours,et aussi d'écriture et de lecture pour chaque cours.	
テキスト、参考文献		評価方法	
ECRIRE en français niveau A2/B1 Alma éditeur 2013 J.-L. Azra Apporter un DICTIONNAIRE.		Un test à la fin du trimestre. Contrôle continu.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	C. ヴァンシンテヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: Ce cours sera consacré à la pratique intensive de l'écriture en français. Sur la base des connaissances acquises les années précédentes, nous travaillerons différents types d'écrits et introduirons progressivement quelques techniques de production écrite. 講義概要: Nous nous entraînerons à rédiger des textes, courts au début, puis de plus en plus construits. Cette activité principale sera renforcée par divers exercices annexes tels que : maximisation de l'usage du dictionnaire, amélioration de l'orthographe, acquisition de vocabulaire et de tournures courantes.		1. Présentation du cours et utilisation du dictionnaire 2. Ecrits courts : notes et commentaires (1) 3. Ecrits courts (2) 4. Ecrire des dialogues : BD et manga (1) 5. Ecrire des dialogues (2) 6. Poésie à la manière de... (1) 7. Poésie (2) 8. Ecrire une lettre : formes et usages (1) 9. Ecrire une lettre (2) 10. Texte d'opinion : connecteurs logiques (1) 11. Ecrire une critique de film (2) 12. Entraînement à la synthèse (1) 13. Entraînement à la synthèse (2) + texte argumentatif 14. Ecrire un texte argumentatif 15. Examen final	
テキスト、参考文献		評価方法	
- Un bon dictionnaire japonais/français (dictionnaire électronique accepté) - Des polycopies seront distribuées ponctuellement		70% : présence active en classe et devoirs à la maison 30% : examen final	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	C. ヴァンシンテヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的: Ce cours sera en continuation de celui du premier semestre. Nous approfondirons les acquis et continuerons à travailler la rédaction en français. 講義概要: Il s'agira par exemple de s'entraîner à rédiger des lettres formelles, des articles d'actualité, des chroniques d'opinion, de courts récits ou autres écrits littéraires. Comme au premier semestre, les exercices de rédaction seront complétés par un entraînement à l'usage du dictionnaire, l'amélioration de l'orthographe, et l'acquisition de vocabulaire et de tournures courantes.		1. Présentation du cours et utilisation du dictionnaire 2. Ecrits courts : notes et commentaires (1) 3. Ecrits courts (2) 4. Ecrire des dialogues : BD et manga (1) 5. Ecrire des dialogues (2) 6. Poésie à la manière de... (1) 7. Poésie (2) 8. Ecrire une lettre : formes et usages (1) 9. Ecrire une lettre (2) 10. Texte d'opinion : connecteurs logiques (1) 11. Ecrire une critique de film (2) 12. Entraînement à la synthèse (1) 13. Entraînement à la synthèse (2) + texte argumentatif 14. Ecrire un texte argumentatif 15. Examen final	
テキスト、参考文献		評価方法	
- Un bon dictionnaire japonais/français (dictionnaire électronique accepté) - Des polycopies seront distribuées ponctuellement		70% : présence active en classe et devoirs à la maison 30% : examen final	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I 和文仏訳 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
和文仏訳。1、2年で学習した文法・語彙の知識を活用して、フランス語の文章を作る能力を高める。簡単な単文（主語+動詞の文）から、複文（様々な従属節—時間・理由・目的などを示す副詞節、関係代名詞節などの形容詞節—を伴う文）までの練習を行う。授業はプリントの練習問題の日本語文を仏訳する。履修する学生は自分の試訳を準備し、その試訳を黒板に書いてもらう。毎回ほぼ全員が当たるので予習が必須である。人数制限をする場合があるので、履修を望む学生は必ず1回目の授業に出席すること。 昨年度と同一内容なので、昨年度履修した学生は今年度履修しても学習上意味がないので注意すること。 和仏辞典についての注意：仏和辞典(電子版を含む)の付録に付いている和仏語彙集や、ポケット版仏和・和仏辞典では足りない。白水社『現代和仏小辞典』か、旺文社『プチ・ロワイヤル和仏辞典』か、三省堂『コンサイス和仏辞典』を必ず手に入れること(現在品切の白水社『コンコルド和仏辞典』を持っている人はそれでよい)。		1回目：授業の説明。人数過多の場合は受講者制限を行う。 2：以降プリントに沿って授業を進める。3回の授業で1課分のプリントを終える進度が標準。 3：続き。 4：続き。 5：続き。 6：続き。 7：続き。 8：続き。 9：続き。 10：続き。 11：続き。 12：続き。 13：続き。 14：続き。 15：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。		学期末試験（8割程度）に授業への参加度（2割程度）を加味する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II 和文仏訳 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
上記参照。 春学期未履修者の履修は可。		春学期の続き。プリントに沿って授業を進める。3回の授業で1課分のプリントを終える進度が標準。 1回目：春学期の続き。 2：続き。 3：続き。 4：続き。 5：続き。 6：続き。 7：続き。 8：続き。 9：続き。 10：続き。 11：続き。 12：続き。 13：続き。 14：続き。 15：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers. Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.		1. Présentation du cours 2. Se présenter par écrit 3. Présenter sa famille 4. Ecrire sur son quartier 5. Ecrire sur sa ville natale 6. Ecrire à un(e) ami(e) pour être hébergé 7. Ecrire sur un souvenir d'enfance 8. Ecrire sur un souvenir d'enfance 9. Ecrire sur un livre qu'on a aimé 10. Ecrire sur un livre qu'on a aimé 11. Ecrire sur un film qu'on a aimé 12. Ecrire sur un film qu'on a aimé 13. Ecrire pour refuser un petit boulot 14. Ecrire pour refuser un petit boulot 15. Bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers. Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.		1. Mise en train. Ecriture en toute liberté 2. Ecrire sur un travail que j'aimerais faire 3. Ecrire sur un travail que j'aimerais faire 4. Ecrire sur un pays où j'aimerais vivre 5. Ecrire sur un pays où j'aimerais vivre 6. Ecrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales 7. Ecrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales 8. Quel enfant j'étais ? 9. Quel enfant j'étais ? 10. Rêver : ma vie dans 10 ans 11. Rêver : ma vie dans 10 ans 12. Mon école idéale 13. Mon université idéale 14. Ecrire une histoire d'amour 15. Bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du deuxième semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I 和文仏訳 a	担当者	津崎 良典
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語で文章を書くためには、文法と語彙が不可欠です。この講義では、文法の復習と語彙の強化を同時に追求しつつ、フランス語で文章を書くための基礎力を身につけます。ここでいう「基礎」とは、初級という意味ではありません。その上に堅固な構築物を建てるのに不可欠な「土台」という意味です。したがって、フランス語中級者または上級者を自認している学生にも積極的に受講して頂きたいのですが、受講者の一応のプロファイルを提示するなら、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) のA2からB1程度の実力をもった学生ということになります。上述した基礎力の涵養を目指すとともに、この講義の題目には「表現」という文字が掲げられていますから、いろいろな表現方法を学んでいきます。この表現方法を徹底的に身につければ、学生の皆さんは、この講義がフランス語で「書く」ことだけでなく、フランス語で「話す」ことにも役立つものだったということに気付くはずです。だって…書くことと話すことは、実は同じことを目指しているのですから！		1. 授業概要の説明、フランス語の書式とパソコン入力の仕方 2. 希望、要望 3. 依頼、動詞 demande 4. 恐怖、不安、心配 5. 確実性、不確実性 6. 主張、伝聞 7. 原因・理由 8. 前半のまとめ、中間試験 9. 中間試験の講評、目的 10. 譲歩 11. 程度、結果 12. 数量 13. 条件 14. 時間 15. 後半のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が適宜用意して配布します。辞書必携。出来ることなら紙媒体の辞書を持参してください。		前回の授業の復習を兼ねた毎回の小テスト (40%)、中間試験 (30%)、期末試験 (30%)	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II 和文仏訳 b	担当者	津崎 良典
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語で文章を書くためには、文法と語彙が不可欠です。この講義では、文法の復習と語彙の強化を同時に追求しつつ、フランス語で長い文章を書くための持久力を身につけます。かつてピアニストの内田光子は、ショパンが作曲したピアノのための『エチュード』とドビュッシーが作曲した『エチュード』の違いについて、後者がピアニストに瞬発力と柔軟性を鍛えることを求めるなら、前者は持久力を鍛えることを求めている、と述べました。この講義では、短文を積み重ねて、あるいは比較的長い一文を書いて、或る程度の長さをもった文章を作っていく練習をします。受講者の一応のプロファイルを提示するなら、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) のB1からB2程度の実力をもった学生ということになります。春学期開講の「フランス語文章表現法 I」を受講しておくことを勧めますが、絶対にというわけではありませんので、秋学期からの参加も歓迎します。フランス人はおしゃべり好き。ということは？たくさん話すのが好きということ。ということは？そう、長短問わず文章をたくさん書き連ねるということです。		1. 授業概要の説明、フランス語の書式とパソコン入力の仕方 2. C'est ...の使い方 3. Quel の使い方 4. 「…があります」を著す表現 5. 代名動詞 6. 複合過去と半過去 7. 大過去 8. 前半のまとめ、中間試験 9. 中間試験の講評、単純過去 10. 関係代名詞① 11. 関係代名詞② 12. 条件法 13. 仮定を表わす表現 14. 履歴書・志望動機の見方 15. 後半のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が適宜用意して配布します。辞書必携。出来ることなら紙媒体の辞書を持参してください。		前回の授業の復習を兼ねた毎回のディクテ (聞き取りテスト) (40%)、中間試験 (30%)、期末試験 (30%)	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I 和文仏訳 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ フランス語学科では昨年から Lille 大学で日本語を勉強しているフランス人学生と <i>télé tandem</i> と言う、「メールのやり取りによるペア学習」を行っています。授業以外で、先生以外のフランス人と実際にコミュニケーションする面白い試みですが、多少は相手に分かるフランス語を書けることが前提となります。作文が上達するためには、書いたものを直してもらって自分の間違いに気づくしかありません。この授業では、各人が書いてきた文をもとに、どうすればもっと良い文なるかを全員で考え、その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身につけることを目指したいと思います。		第 1 回：ガイダンス 第 2 回：理由を表す文 1 第 3 回：理由を表す文 2 第 4 回：結果を表す文 1 第 5 回：結果を表す文 2 第 6 回：譲歩を表す文 1 第 7 回：譲歩を表す文 2 第 8 回：様々構文を用いた文 1 第 9 回：様々構文を用いた文 2 第 10 回：様々構文を用いた文 3 第 11 回：様々構文を用いた文 4 第 12 回：メールでの質問 1 第 13 回：メールでの質問 2 第 14 回：メールでの依頼 1 第 15 回：メールでの依頼 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II 和文仏訳 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		第 1 回：ガイダンス 第 2 回：「フランス人のまっかなほんと」 1 第 3 回：「フランス人のまっかなほんと」 2 第 4 回：「フランス人のまっかなほんと」 3 第 5 回：「フランス人のまっかなほんと」 4 第 6 回：「日本人のまっかなほんと」 1 第 7 回：「日本人のまっかなほんと」 2 第 8 回：「日本人のまっかなほんと」 3 第 9 回：「日本人のまっかなほんと」 4 第 10 回：「イタリア人のまっかなほんと」 1 第 11 回：「イタリア人のまっかなほんと」 2 第 12 回：「イタリア人のまっかなほんと」 3 第 13 回：「イタリア人のまっかなほんと」 4 第 14 回：「イタリア人のまっかなほんと」 5 第 15 回：「イタリア人のまっかなほんと」 6	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語を 2 年間学んだ学生を対象としたクラスです。授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げ、フランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。年間を通し、皆さんと一緒に楽しいフランス語のクラスにしていきたいと思います。必要に応じ日本語で説明します。 注意：毎回、授業の 10 分間を利用し、DVD でフランスの文化、文明、歴史、教育、社会、美食文化、芸術分野等を紹介し、簡単な説明をします。 Parlons français et préparons votre prochain voyage / séjour en France ou dans un pays francophone ! Bon courage !		1. ガイダンス 1 2. Dans la rue - Découvrir Paris 1 3. Dans la rue - Découvrir Paris 2 4. Jeux de rôle - Bilan 5. Au café - Rencontre 1 6. Au café - Rencontre 2 7. Jeux de rôle - Bilan 8. Dans un taxi - Les transports 1 9. Dans un taxi - Les transports 2 10. Jeux de rôle - Bilan 11. Au téléphone - Appeler q.n. 1 12. Au téléphone - Appeler q.n. 2 13. Jeux de rôle - Bilan 14. Au restaurant - Manger et boire 1 & 2 15. Jeux de rôle - Bilan & 前期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Nouveau - Situations H. Saito 他 (FREE MP3-Podcast) ED. Sobi 一年を通して使用。		授業中に数回、小レポートを実施し(40%)、授業に対する参加態度を考慮し(60%)、総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語を 2 年間学んだ学生を対象としたクラスです。授業の進め方は、日常生活における様々な場面（買い物、道案内、レストランでの注文、地下鉄の利用方法など）を取り上げ、フランスを訪れた時に役立つ知識と自然な言い回しを学びます。また、フランスやフランス人の生活を授業の中で紹介することにより、フランスへの理解をより一層深めたいと思います。年間を通し、皆さんと一緒に楽しいフランス語のクラスにしていきたいと思います。必要に応じ日本語で説明します。 注意：毎回、授業の 10 分間を利用し、DVD でフランスの文化、文明、歴史、教育、社会、美食文化、芸術分野等を紹介し、簡単な説明をします。 Parlons français et préparons votre prochain voyage / séjour en France ou dans un pays francophone ! Bon courage !		1. Au secrétariat - Etudier en France 1 2. Au secrétariat - Etudier en France 2 3. Jeux de rôle - Bilan 4. A la maison - La vie des Français 1 5. A la maison - La vie des Français 2 6. Jeux de rôle - Bilan 7. Dans les magasins - Le shopping 1 8. Dans les magasins - Le shopping 2 9. Jeux de rôle - Bilan 10. A l'agence de voyage - Les voyages 1 11. A l'agence de voyage - Les voyages 2 12. Jeux de rôle - Bilan 13. À l'hôtel - Les réservations 1 14. À l'hôtel - Les réservations 2 15. Jeux de rôle - Bilan & 後期まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Nouveau - Situations H. Saito 他 (FREE MP3-Podcast) ED. Sobi 一年を通して使用。		授業中に数回、小レポートを実施し(40%)、授業に対する参加態度を考慮し(60%)、総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : L'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible. Contenu : Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes ce qui nous donnera l'occasion de dire en français ce qui a été important pour nous. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.		1. Présentation du cours 2. La musique 3. La musique 4. La chanson 5. La chanson 6. Le cinéma 7. Le cinéma 8. Le français qui bouge 9. Le français qui bouge 10. Les médias 11. Les médias 12. Les loisirs 13. Partir en vacances 14. Partir en vacances 15. Bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : L'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible. Contenu : Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes ce qui nous donnera l'occasion de dire en français ce qui a été important pour nous. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.		1. Mise en train 2. Le logement 3. Le logement 4. La maison 5. Les repas 6. Les repas 7. Qui fait la cuisine à la maison ? 8. Qui fait les courses ? Où ? Comment ? 9. Qui fait les courses ? Où ? Comment ? 10. Nourrir toute la planète 11. L'école de mes enfants 12. Apprendre. Comment ? 13. Apprendre. Comment ? 14. Pourquoi parler plusieurs langues étrangères ? 15. Bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif du cours : Dans ce cours, vous apprendrez à vous exprimer en français sur des thèmes de la vie de tous les jours tout en approfondissant vos connaissances lexicales et grammaticales. Déroulement du cours : - Exposé par 1 ou 2 élèves en fonction du thème du jour - Travail sur un point grammatical précis en fonction des besoins des élèves - Etude d'un document en relation avec le thème du jour - Discussion sur le thème - Remise par le professeur d'une feuille de vocabulaire et d'un document à préparer pour le cours suivant - Remise du texte de l'exposé de la semaine suivante par l'élève concerné		1 Présentation du cours, partage des exposés 2 L'université et les études 3 Le monde du travail et les petits boulots 4 L'alimentation et la santé 5 La politesse et les traditions 6 Le mariage et les relations hommes / femmes 7 La religion et la spiritualité 8 La musique, jouée et écoutée 9 La télévision, le théâtre et le cinéma 10 Le sport, regardé et pratiqué 11 La lecture, la littérature, les écrivains 12 Internet et les portables 13 La famille, les amis et les fêtes 14 Les vacances et les loisirs 15 Thème choisi par les élèves	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire, ainsi que des documents à préparer. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, exposé individuel	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif du cours : Pour le semestre d'automne, chaque leçon s'organisera non plus autour d'un thème général, mais autour d'une question précise, reprenant les thèmes du semestre précédent, et qui donnera lieu à un débat. Déroulement du cours : - Exposé par 1 ou 2 élèves sous la forme d'une prise de position au sujet de la question du jour - Travail sur un point grammatical précis en fonction des besoins des élèves - Etude d'un document en relation avec le débat du jour - Débat entre les élèves - Remise d'une feuille de vocabulaire et d'un document à préparer pour le cours suivant - Remise du texte de l'exposé de la semaine suivante par l'élève concerné		1 Présentation du cours, partage des exposés 2 Le système éducatif actuel est-il satisfaisant ? 3 Les Japonais travaillent-ils trop ? 4 Que devrait-on faire pour vivre plus longtemps ? 5 Toutes les traditions doivent-elles être protégées ? 6 Le mariage est-il une chose nécessaire ? 7 Les Japonais sont-ils un peuple religieux ? 8 La musique devrait-elle être gratuite ? 9 Doit-on interdire aux enfants de regarder la télé ? 10 Doit-on rendre le sport obligatoire pour tous ? 11 Les livres papier ont-ils encore un avenir ? 12 Les nouvelles technologies sont-elles un danger ? 13 Devrait-on interdire l'alcool et le tabac ? 14 Que choisir : les vacances au Japon où à l'étranger ? 15 Débat choisi par les élèves	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire, ainsi que des documents à préparer. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, exposé individuel	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	M. デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
3年生向けのフランス語会話の授業です。聴き取りと口述表現を練習します。まず、文法を確認する為の会話の聴き取り、簡単なダイアログやその背景にある日常的な状況を理解しましょう。春学期は自己紹介・ロールプレイ・社会問題をテーマにした会話の練習をします。秋学期は日常生活の様々なシーンを設定し、各役を演じてみましょう。対話の練習を通してその役にふさわしい話し方を身につけます。また、普段の生活の中で起こりえる状況や社会問題などについて自分の意見を発表します。その為の論拠の組み立て方とメソッドを学びましょう。目指すレベルはDELF B1くらいです。 Dans ce cours de conversation niveau troisième année, nous avons pour objectif de travailler sur la compréhension et l'expression orale. Partant de rappels en grammaire et de l'usage d'un lexique propre à un thème spécifique, travaillons la compréhension d'un dialogue simple. Puis, discutons sur un problème de la vie quotidienne pour se préparer à exprimer une opinion justifiée.		Par la compréhension et à l'expression orale, à partir de dialogues simples autour d'une question de grammaire ou d'une situation quotidienne, l'étudiant s'exprime logiquement sur ce qu'il voit et entend. 1. Présentation du cours. 2. La présentation de soi 3. Le jeu de rôle (1) en binôme 4. La compréhension et expression orale liés aux pronoms directs 5. Le jeu de rôle (2) en binôme 6. L'expression orale liée aux situations passées 7. L'exposé individuel. 8. L'expression orale liée aux situations futures 9. Le jeu de rôle (3) en binôme 10. L'expression orale liée aux situations imaginées (conditionnel) 11. L'exposé sur un thème (monologue) 12. L'expression orale liée au subjonctif 13. Le jeu de rôle (4) en binôme 14. L'expression d'un avis sur une question de débat (1) 15. L'expression d'un avis sur une question de débat (2) Dans une seconde partie, nous nous entraînons à l'expression orale sur les grands points suivants : -la présentation de soi. -le jeu de rôle en situation.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies distribuées par le professeur		Evaluation par la participation en cours et la préparation de petits exposés oraux	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	M. デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
3年生向けのフランス語会話の授業です。聴き取りと口述表現を練習します。まず、文法を確認する為の会話の聴き取り、簡単なダイアログやその背景にある日常的な状況を理解しましょう。春学期は自己紹介・ロールプレイ・社会問題をテーマにした会話の練習をします。秋学期は日常生活の様々なシーンを設定し、各役を演じてみましょう。対話の練習を通してその役にふさわしい話し方を身につけます。また、普段の生活の中で起こりえる状況や社会問題などについて自分の意見を発表します。その為の論拠の組み立て方とメソッドを学びましょう。目指すレベルはDELF B1くらいです。 Dans ce cours de conversation niveau troisième année, nous avons pour objectif de travailler sur la compréhension et l'expression orale. Pour le second semestre, nous faisons davantage attention à l'expression d'un avis en situation de débat et à la recherche d'arguments pour affirmer son avis. Cette compétence peut être développée par les préparations aux épreuves orales du DELF.		Par la compréhension et à l'expression orale, à partir de dialogues simples autour d'une situation quotidienne et des méthodes utilisées pour les examens du DELF français. 1. Présentation du cours. 2. Le jeu de rôle (1) en binôme 3. Le jeu de rôle (2) en binôme 4. Compréhension et description d'extraits de films (1) 5. Entraînement aux épreuves d'expression orale du DELF A1 (1) 6. Entraînement aux épreuves d'expression orale du DELF A1 (2) 7. Compréhension et description d'extraits de films (2) 8. Entraînement aux épreuves d'expression orale du DELF A2 (1) 9. Entraînement aux épreuves d'expression orale du DELF A2 (2) 10. Compréhension et descriptions d'extraits de films (3) 11. Entraînement aux épreuves d'expression orale du DELF B1 (1) 12. Entraînement aux épreuves d'expression orale du DELF B1 (1) 13. Expression en groupes sur des questions de débats 14. Entraînement aux épreuves d'expression orale du DELF B2 (1) 15. Entraînement aux épreuves d'expression orale du DELF B2 (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies distribuées par le professeur		Evaluation par la participation en cours et la préparation de petits exposés oraux	

08 年度以降 07 年度以前	ビジネスフランス語 I ビジネスフランス語 a	担当者	C. パジエス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を春学期で扱います。(変更あり) Thèmes étudiés : 1. Introduction au cours / Programme 2. La formation 3. Les diplômes 4. Exploitation / Evaluation 5. Rechercher un emploi 6. Candidature 7. CV 8. Exploitation / Evaluation 9. Les pratiques de recrutement 10. Lettre de motivation 11. Entretien d'embauche 12. Exploitation / Evaluation 13. Les contrats de travail 14. Professions et métiers 15. Exploitation / Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		平常点および授業への参加態度 70%、小テスト 30%	

08 年度以降 07 年度以前	ビジネスフランス語 II ビジネスフランス語 b	担当者	C. パジエス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を秋学期で扱います。(変更あり) Thèmes étudiés : 1. Introduction au cours / Programme 2. Organiser un déplacement 3. Réserver une chambre d'hôtel 4. Réserver un billet d'avion / de train 5. Exploitation / Evaluation 6. Organiser son emploi du temps 7. Prendre contact par téléphone 8. Courrier et courriel 9. Exploitation / Evaluation 10. Passer commande 11. Importer et exporter 12. Exploitation / Evaluation 13. Découvrez l'entreprise 14. Fonctions dans l'entreprise 15. Exploitation / Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		平常点および授業への参加態度 70%、小テスト 30%	

08 年度以降 07 年度以前	上級フランス語 I 時事フランス語 a	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目標は、以下の3 点です。 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。 この授業はTCF310点以上の学生を対象としています。初回の授業で受講の可否を決めますので、必ず出席してください。		基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2014 年のニュースを予測することはできませんので、以下に 2013 年度春学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。 1. 復活祭のチョコレート卵さがし 2. ルーブル美術館で集団スリ 3. 酪農家による激しい抗議行動 4. 5月1日はすずらんの日 5. チュニジアへの仏観光客が減少 6. 同性婚を許可する法律が成立 7. カンヌ映画祭 8. オランダ大統領訪日 9. G8 サミット開催 10. エアバス対ボーイング 11. モンサンミッシェルの改修工事 12. ツールドフランス 13. ベルギー国王即位 14. 気候温暖化 15. エナジードリンクの危険性	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには 75%以上の出席率が必要ですが、就職活動をする方は、個人的に相談にいらしてください。AA, A, B, C, F の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08 年度以降 07 年度以前	上級フランス語 II 時事フランス語 b	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目標は、以下の3 点です。 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。 この授業はTCF310 点以上の学生を対象としています。初回の授業で受講の可否を決めますので、必ず出席してください。		基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2014 年のニュースを予測することはできませんので、以下に 2013 年度秋学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。 1. 東京オリンピック開催決定 2. 大人にも人気のアステリクス 3. シェールガスと水圧破砕法 4. アメリカがフランスで大規模な盗聴活動 5. マリ共和国で仏ジャーナリストが殺害される 6. 仏国価格下げ 7. トリュフのシーズン 8. フィリピン台風と国境なき医師団 9. 心のレストランがオープン 10. フランス北部とは 11. クボタがフランスに新工場 12. マルシェドノエル 13. ガレットデロワ 14. 自動車の相乗り増える 15. オランダ大統領、仏女優と密会	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには 75%以上の出席率が必要ですが、就職活動をする方は、個人的に相談にいらしてください。AA, A, B, C, F の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語学論 I フランス語学概論 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去 2 年間の講義内容とは異なるものとなる（最長 3 年間重複履修可能）。 受講者に求めること：受講者のフランス語力は問わないが、内容上、最低でも 1 年次の文法の授業内容を理解できていなければ、この授業についていくことは難しい。不安なところがある人は、予め復習しておくか、授業時間外に質問に来ること。また、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。受講予定者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻 2 回で欠席 1 回とする）。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。		第 1 回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明、フランス語学とはなにか 第 2 回～15 回 以下のテーマを論じる予定： ・なぜ Charles は 1 人でも複数形なのか？ ・François は Français なのか？ ・他言語との関係 ・動詞の不規則活用について ・なぜ同音異義語は存在するのか ・大過去形は「過去の過去」か？ ・近接過去形は「近い過去」か？ ・時制の一致とはなにか？ ・過去分詞の一致 ・現代フランス語の特徴 ・冠詞論 「定」とは？ ・無冠詞と冠詞の省略 ・「不可算」とはどういうことか？ ・全面的な否定と部分的な否定 ・比較構文 ・名詞の種類、女性形と男性形 ・代名詞論 など	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。卒業再試験は行わない。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語学論 II フランス語学概論 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08 年度以降	フランス語文章理論 I	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ フランス語を書いたり、話しりしていると、今までの文法だけでは不足していると思うことがよくあります。この授業では「フランス語を発信する」ことを念頭に置き、初級文法で取り上げられていない文法項目をとりあげます。「読む」場合は、極端に言えば、主語と動詞と目的語が分かればある程度意味は取れますが、「書く」「話す」など、自分でフランス語の文を作り出す場合はもっと細かい文法知識が必要になります。 授業の概要 1・2年次で学習した文法をふまえて、フランス語を話す・書くときに間違いやすい事項をさらに言語学的な見地から学習する。特に、簡単な文でもほぼ必ず出てくるが初級文法ではまとまって取り上げられない前置詞と、日本人にとって困難な冠詞をとりあげる。		第1回： ガイダンス 第2回：動詞の性質と時を表す前置詞の関係 1 第3回：動詞の性質と時を表す前置詞の関係 2 第4回：場所を表す前置詞 1 第5回：場所を表す前置詞 2 第6回：場所を表す前置詞 3 第7回：場所を表す前置詞 4 第8回：手段を表す前置詞 1 第9回：手段を表す前置詞 2 第10回：手段を表す前置詞 3 第11回：être de 名詞 1 第12回：être de 名詞 2 第13回：動詞＋前置詞 1 第14回：動詞＋前置詞 2 第15回：動詞＋前置詞 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08 年度以降	フランス語文章理論 II	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		第1回： ガイダンス 第2回：冠詞に関する練習 1 第3回：冠詞に関する練習 2 第4回：冠詞に関する練習 3 第5回：être + 冠詞 第6回：一般的なことを表す冠詞 1 第7回：一般的なことを表す冠詞 2 第8回：部分冠詞 1 第9回：部分冠詞 2 第10回：部分冠詞 3 第11回：身体の一部を表す名詞と限定詞 1 第12回：身体の一部を表す名詞と限定詞 2 第13回：冠詞練習問題 1 第14回：冠詞練習問題 2 第15回：冠詞練習問題 3	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08 年度以降	フランス言語語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目指す。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 学習ストラテジーの基本的な考え方と、「聞く」能力を身につけるための学習活動（アクティビティ）を組み立てる方法を学び、グループ作業を通して実践していく。		第 1 回：Introduction 第 2 回：外国語学習とは何か ― 「学ぶ立場」から ― 第 3 回：外国語教育とは何か ― 「教える立場」から ― 第 4 回：外国語学習における「良い学習者」 第 5 回：学習ストラテジーの定義について 第 6 回：学習ストラテジーの分類と学習活動（グループ作業） 第 7 回：「聞く」ための指導 第 8 回：発音の指導 第 9 回：リズム・イントネーション・発音の学習のための教材 第 10 回：音声教材の使い方と指導法 第 11 回：さまざまなタイプの聴解練習問題の分析 第 12 回：聴解練習問題の組み立て方 第 13 回：聴解練習を取り入れたアクティビティ作成（グループ作業） 第 14 回：「聞く」活動のグループ発表 第 15 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著：『フランス語をどのように教えるか』、駿河台出版社、1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès : Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.		定期試験、授業中のグループ作業、グループ発表、課題、授業への取り組みなどを総合的に評価する。	

08 年度以降	フランス言語語教育論 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目指す。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。 【授業の概要】 「聞く」能力養成を踏まえて、「話す」「読む」「書く」上でのコミュニケーション能力養成を目指した学習活動（アクティビティ）の組み立て方と指導法を学び、グループ作業を通して実践する。		第 1 回：Introduction 第 2 回：「話す」活動の指導法 第 3 回：Documents authentiques（教材用に作成されたものではないもの）を教材にする授業 第 4 回：「話す」学習活動の題材選びと準備、および組み立て方 第 5 回：「話す」活動を取り入れたアクティビティ作成（グループ作業） 第 6 回：「話す」活動のグループ発表 第 7 回：「読む、書く」活動の指導法 第 8 回：学習者のレベルにあった教材選び 第 9 回：文法と読解の授業について 第 10 回：母語と学習言語の扱いについて 第 11 回：Documents authentiques を「読み物」とする授業 第 12 回：「読む、書く」練習の組み立て方 第 13 回：「読む、書く」活動を取り入れたアクティビティ作成（グループ作業） 第 14 回：「読む、書く」活動のグループ発表 第 15 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】中村啓佑、長谷川富子著：『フランス語をどのように教えるか』、駿河台出版社、1995 年 【参考文献】DISSON, Agnès : Pour une approche communicative dans l'enseignement du français au Japon, Presses Universitaires d'Osaka, 1996.		定期試験、授業中のグループ作業、グループ発表、課題、授業への取り組みなどを総合的に評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション各論 I フランス語学論 a	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1 全般的なオリエンテーション 2-4 代名詞（1）：名詞と代名詞 5-7 代名詞（2）：人称代名詞と中性代名詞 8-10 代名詞（3）：代名詞と照応 11-14 代名詞（4）：先行詞の位置 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と授業への参加態度による。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション各論 II フランス語学論 b	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。		1-3 構文（1）：非人称構文 4-6 構文（2）：使役構文 7-9 構文（3）：受動態構文 10-14 構文（4）：その他の構文 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と授業への参加態度による。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション購読 I フランス語学講読 a	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>But du cours</u> : Pouvoir lire et comprendre des textes d'actualité de nature politique, sociologique ou économique. <u>Contenu</u> : Au début, lecture d'articles destinés aux jeunes, collégiens et lycéens sur des sujets d'actualité ayant rapport aux <u>sociétés francophones</u> et surtout à la <u>France d'outre mer</u>. Plus tard, les articles seront tirés des journaux habituels. <u>Méthode</u> : Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte. <u>Pas de traduction.</u>		1 Présentation du cours 2-14. Lecture selon la méthode exposée ci-contre d'articles d'actualité récente pris dans les journaux et revues pour jeunes. (5. Petit test de vocabulaire) (9. Petit test de vocabulaire) (12. Petit test de vocabulaire) 15. conclusions.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2014.		Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション購読 II フランス語学講読 b	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir le premier semestre. Dans toute la mesure du possible, nous abordons au 2e semestre des articles des journaux francophones habituels. <u>Remarque générale</u> pour les deux semestres : À partir de la 3^e année, il est important et urgent d'augmenter son <u>vocabulaire</u> actif et passif pour comprendre la société actuelle, se former une opinion et pouvoir l'exprimer. J'essaierai d'organiser plusieurs contrôles du vocabulaire rencontré.		1 Bilan du premier semestre. 2-14. Lecture selon la méthode présentée au premier semestre d'articles d'actualité récente. (5. Petit test de vocabulaire) (9. Petit test de vocabulaire) (12. Petit test de vocabulaire) 15 Conclusions générales	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2014.		Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業は、「外国語としてのフランス語教育」をテーマに、様々なテキストを通してフランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識の習得を目的とする。 <講義概要> 今年度は、対象レベルの異なるテキストを題材に、フランス語教育の現場での扱いについて考える。テキストは同じようなテーマについて書かれた難易度の異なるもので、フランスの日常生活、フランスの学校生活、フランスという国やフランス人についての様々な事柄をテーマにしている。授業では、それらのテキストを「フランス語教育」の視点から考える材料として扱う。また、随時、グループ作業やグループ発表も取り入れる。 履修する学生は一回目の授業から参加すること。		1. Introduction 2. フランス 1 3. フランス 2 4. フランス 3 5. フランス人の暮らし 1 6. フランス人の暮らし 2 7. フランス人の暮らし 3 8. フランス人の暮らし 4 9. フランス人と仕事 1 10. フランス人と仕事 2 11. フランス人と仕事 3 12. 家族と友人 1 13. 家族と友人 2 14. 家族と友人 3 15. まとめ (授業の進行状況により変更することもある。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		授業参加態度、課題(予習等を含む)、個別作業 / グループワークと発表、定期試験 (持ち込み不可)。	

(秋) 08 年度以降 (秋) 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業は、「外国語としてのフランス語教育」をテーマに、様々なテキストを通してフランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識の習得を目的とする。 <講義概要> 今年度は、対象レベルの異なるテキストを題材にフランス語教育の現場での扱いについて考える。テキストは同じようなテーマについて書かれた難易度の異なるもので、フランスの日常生活、フランスの学校生活、フランスという国やフランス人についての様々な事柄をテーマにしている。授業では、それらのテキストを「フランス語教育」の視点から考える材料として扱う。随時、グループ作業やグループ発表も取り入れる。 履修する学生は一回目の授業から参加すること。		1. Introduction 2. フランスの学校生活 1 3. フランスの学校生活 2 4. フランスの学校生活 3 5. フランスの学校生活 4 6. フランス人の趣味 1 7. フランス人の趣味 2 8. フランス人の趣味 3 9. フランス人の趣味 4 10. 日常生活 1 11. 日常生活 2 12. 日常生活 3 13. 日常生活 4 14. 日常生活 5 15. まとめ (授業の進行状況により変更することもある。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		授業参加態度、課題(予習等を含む)、個別作業 / グループワークと発表、定期試験 (持ち込み不可)。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。 講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を丁寧に読んでいく（1つの作品を1年間かけて読んでいくというような形ではない）。春学期は仏検2級程度、秋学期は仏検準1級程度の文章を扱う。 その他：全員予習は必須。毎回ランダムに全員を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は全て応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。4回以上欠席した場合には、定期試験が満点でも評価対象としない（遅刻2回で1回欠席）。また、単語テストを毎回冒頭に実施し、その点数を評価に加点する。		第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回～15回：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。 なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等、さまざまな分野・文体のものである。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		発表内容、授業への積極的参加姿勢、定期試験、単語テストにより評価する。卒業再試験は行わない。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学購読 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ この授業ではフランス語で「読む喜び」を感じるために、フランスを舞台にしたサマセット・モームのいくつかの短編小説を読みます。ユーモアと皮肉、人間に対する鋭い観察眼が混じった、笑える小説を取り上げました。じっくり読みながら、文法の再確認、語彙・表現の習得、ヨーロッパ文化についての学習を目指します。		第 1 回 : ガイダンス 第 2 回 : les trois grosses dames d'Antibe 1 第 3 回 : les trois grosses dames d'Antibe 2 第 4 回 : les trois grosses dames d'Antibe 3 第 5 回 : les trois grosses dames d'Antibe 4 第 6 回 : les trois grosses dames d'Antibe 5 第 7 回 : les trois grosses dames d'Antibe 6 第 8 回 : les trois grosses dames d'Antibe 7 第 9 回 : la leçon des choses 1 第 10 回 : la leçon des choses 2 第 11 回 : la leçon des choses 3 第 12 回 : la leçon des choses 4 第 13 回 : la leçon des choses 5 第 14 回 : la leçon des choses 6 第 15 回 : la leçon des choses 7	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学購読 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じです。		第 1 回 : ガイダンス 第 2 回 : le déjeuner 1 第 3 回 : le déjeuner 2 第 4 回 : le déjeuner 3 第 5 回 : le déjeuner 4 第 6 回 : la cigale et la fourmi 1 第 7 回 : la cigale et la fourmi 2 第 8 回 : la cigale et la fourmi 3 第 9 回 : la cigale et la fourmi 4 第 10 回 : la cigale et la fourmi 5 第 11 回 : apparence et réalité 1 第 12 回 : apparence et réalité 2 第 13 回 : apparence et réalité 3 第 14 回 : apparence et réalité 4 第 15 回 : apparence et réalité 5	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの美術 I フランスの美術 a	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 17 世紀から 19 世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。 講義概要： 毎回一人の画家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. イントロダクション 2. プッサン 3. ワトー 4. シャルダン 5. ダヴィッド 6. アングル 7. ドラクロワ 8. クールベ 9. ドーミエ 10. ミレー 11. マネ 12. 印象派-1 13. 印象派-2 14. <開催中の展覧会から：ヴァロトン> 15. <開催中の展覧会から：デュフィー>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。		コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行き書いてもらいます。）	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの美術 II フランスの美術 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 印象派以降、20 世紀初頭までのフランス美術の展開を概観します。 代表的な作家と作品について知るとともに、印象派以降のさまざまな美術の動向と、それらが提起する問題について理解を深めることを目的とします。 講義概要： 毎回一人の作家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. <開催中の展覧会から：オルセー美術館展> 2. 印象派-1 3. 印象派-2 4. 印象派-3 5. セザンヌ 6. スーラ 7. ルドン 8. ゴッガン 9. ゴッホ 10. ジャポニスム 11. トゥールーズ=ロートレック 12. エコール・ド・パリ 13. マティス 14. アンリ・ルソー 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。		コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末レポート（美術館に行き書いてもらいます。）	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの音楽 I フランスの音楽 a	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
時代思潮の変化とともに音楽表現の美意識がどのように変わっていくのか、時代を追って見ていきます。それによって現代の状況を考え、理解することが目的です。 春学期はまずオペラを採り上げ、そこに描かれる人間模様がどのように音楽で表現されていくかを年代順に見ていきます。 次に主に19世紀後半のヨーロッパ周辺国に焦点を当てて、音楽表現の広がりを確認します。 できるだけ作品を聴き、映像を活用しながら進めます。		1. ガイダンス 2. オペラ 1：その始まり 3. オペラ 2：古典派（1） 4. オペラ 3：古典派（2） 5. オペラ 4：ロマン派（1：ドイツ） 6. オペラ 5：ロマン派（2：イタリア） 7. オペラ 6：ロマン派（3：フランス） 8. オペラ 7：ロマン派（4：フランス） 9. ヨーロッパ周辺国の音楽 1：ロシア（1） 10. ヨーロッパ周辺国の音楽 2：ロシア（2） 11. ヨーロッパ周辺国の音楽 3：ロシア（3） 12. ヨーロッパ周辺国の音楽 4：北欧 13. ヨーロッパ周辺国の音楽 5：スペイン 14. ヨーロッパ周辺国の音楽 6：ハンガリー 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布 参考文献：授業時に紹介		2 回の試験の平均点（80％）と授業時の課題（20％）	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの音楽 II フランスの音楽 b	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
時代思潮の変化とともに音楽表現の美意識がどのように変わっていくのか、時代を追って見ていきます。それによって現代の状況を考え、理解することが目的です。 秋学期は、フランス音楽との比較という意味で、ドイツ・ロマン派のあとに新しい音楽体系をつくり上げたオーストリアのシェーンベルクから始めます。その後は 20 世紀前半のフランスに焦点をしばらく主要な作曲家を細かく見ていきます。 できるだけ作品を聴き、楽譜なども活用しながら進めます。		1. ガイダンス 2. シェーンベルクの表現主義 1 3. シェーンベルクの表現主義 2 4. サティ 1 5. サティ 2 6. 六人組 1：オネゲル（1） 7. 六人組 2：オネゲル（2） 8. 六人組 3：ミヨー（1） 9. 六人組 4：ミヨー（2） 10. 六人組 5：プーランク（1） 11. 六人組 6：プーランク（2） 12. メシアン 1 13. メシアン 2 14. プーレーズ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布 参考文献：授業時に紹介		2 回の試験の平均点（80％）と授業時の課題（20％）	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの舞台芸術 I フランスの演劇 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
今年度は、17 世紀に活躍し、今なおフランスでもっとも上演回数の多いことで知られる、フランス最高の喜劇作家モリエール（1622-1673）の生涯と作品を取り上げます。 春学期は、モリエールの生い立ちから始めて、パリで劇団を旗揚げするも失敗した後、長い地方巡業時代を経てパリに帰還し、国王の愛顧を得て劇作家として成功を収めるまでの足跡をたどります。作品としては、いわゆる本格喜劇の三大傑作と言われる『タルチュフ』『ドン・ジュアン』『ミザントロップ（人間嫌い）』の分析が主となります。 受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、A を揃えたいような人には不向きです。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。 なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 授業概要の説明 2. モリエールの幼少時代 3. 学校時代から演劇の道へ 4. 「盛名劇団」の旗揚げから地方巡業へ 5. パリ帰還と定着までの軌跡 6. 『女房学校』 7. 『タルチュフ』（1） 8. 『タルチュフ』（2） 9. 『タルチュフ』（3） 10. 『ドン・ジュアン』（1） 11. 『ドン・ジュアン』（2） 12. 『ドン・ジュアン』（3） 13. 『ミザントロップ（人間嫌い）』（1） 14. 『ミザントロップ（人間嫌い）』（2） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは適宜プリント。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし、6 回以上欠席した場合には自動的に F 評価とする。	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの舞台芸術 II フランスの演劇 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
今年度は、17 世紀に活躍し、今なおフランスでもっとも上演回数の多いことで知られる、フランス最高の喜劇作家モリエール（1622-1673）の生涯と作品を取り上げます。 秋学期は、モリエールが宮廷での上演のために創作し、宮廷音楽家リュリの協力のもと発展させた総合的な舞台芸術形式であるコメディ・バレエの分析を中心に授業を行います。コメディ・バレエは、モリエール独自の喜劇の型紙に、伝統的な宮廷バレエを合体させたものです。 受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、A を揃えたいような人には不向きです。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。 なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 授業概要の説明 2. 『ミザントロップ（人間嫌い）』以降のモリエール 3. ルイ 14 世と宮廷祝祭（1） 4. ルイ 14 世と宮廷祝祭（2） 5. 宮廷バレエとコメディ・バレエ誕生の経緯（1） 6. 宮廷バレエとコメディ・バレエ誕生の経緯（2） 7. 『うるさがた』 8. 『町人貴族』（1） 9. 『町人貴族』（2） 10. 『町人貴族』（3） 11. リュリとモリエールの確執（1） 12. リュリとモリエールの確執（2） 13. 『病は気から』（1） 14. 『病は気から』（2） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは適宜プリント。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし、6 回以上欠席した場合には自動的に F 評価とする。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス文学史 I フランス文学史 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランスの文学と歴史」(その 1) フランスの中世から現代まで、作家たちがどのような文学作品を創造してきたのか、そして読者たちがどのような作品を受容してきたのかを概観することによって、文化形成の歴史の一端を探求します。「文学」ということばそのものも、フランスと日本とでは、もつ意味の広さが異なります。日本の文化・歴史をつねに念頭におきつつ、人間の文化創造の営みを相対的に理解することを目指します。 フランス文学の歴史を、各時代の政治・宗教、あるいは絵画・彫刻・建築・音楽等の芸術思潮と関連づけながら、代表的な文学作品を紹介します。学生諸君は、自らの選択で各世紀の作家・作品を選び、読みかつ論じること、フランス文学に親しみ、作品に照らして自らの思索の方途を見いだし、書くことによって論理的思考を涵養してください。 出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。 自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。		(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。) 1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介 2 「文学」ということばのもつ広がり (フランスと日本) 3 「文学史」とは? 文化と歴史 (フランスと日本) 4 フランス中世と文学 (その 1) 5 フランス中世と文学 (その 2) 6 フランス中世と文学 (その 3) 7 フランス 16 世紀・ルネッサンス (その 1) 8 フランス 16 世紀・ルネッサンス (その 2) 9 フランス 16 世紀・ルネッサンス (その 3) 10 レポート解説・紹介および試験 11 フランス 17 世紀・古典主義 (その 1) 12 フランス 17 世紀・古典主義 (その 2) 13 フランス 17 世紀・古典主義 (その 3) 14 レポート解説・紹介および試験 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995) 教室で随時プリントを配布します。		授業への参加態度 (参加と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス文学史 II フランス文学史 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランスの文学と歴史」(その 2) 前期に引き続き、授業計画に示したように、フランス文学史を時代順に概観すると並行して、詩・演劇・小説・思想などのジャンルについても、その変遷がわかるように、随時、説明を加えます。 授業では、可能な限り、参考書をもとに学生が選んだテーマに即して、個別具体的な作品を論じながら、時代背景と作品生成との関連を解説します。 演劇については録画を、詩と小説については朗読の録音を紹介し、文化史的背景についてはスライド上映などで、説明を補う予定です。 できるだけ多くの文学作品を知り、そのなかから学生諸君が自らの関心に即した各世紀の作品を選び、親しむことを目標にします。 講義は参考書を用いながら、随時テキストを抜粋したプリントで行います。 出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。 自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。		(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。) 1 前期のまとめと後期の展望 2 フランス 18 世紀・啓蒙の世紀 (その 1) 3 フランス 18 世紀・啓蒙の世紀 (その 2) 4 フランス 18 世紀・啓蒙の世紀 (その 3) 5 レポート解説・紹介および試験 6 フランス 19 世紀・ロマン主義 (その 1) 7 フランス 19 世紀・ロマン主義 (その 2) 8 フランス 19 世紀・象徴主義 (その 1) 9 フランス 19 世紀・象徴主義 (その 2) 10 レポート解説・紹介および試験 11 フランス 20 世紀・両次大戦間の文学 12 フランス 20 世紀・実存主義 13 フランス 20 世紀・文芸思潮 14 レポート解説・紹介および試験 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995) 教室で随時プリントを配布します。		授業への参加態度 (参加と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの文学 I フランスの文学各論 a	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、近代フランス文学の流れをひとつのテーマから切り取り、文化と社会の強い結びつきや、現代に通底する価値観を解き明かすことを目的としています。 春学期は、「広告と文学」をテーマに、近代資本主義社会の成立が、文学におよぼした影響について学びます。売り手の広告や宣伝、買い手の消費行動が日常ときつてもきりはなせないものとなった時代に、それまでにないキャラクター、ストーリー、詩的言語、イマージュが誕生しました。この流れは、パリにおけるメディアの発達とも深くからみあっています。「芸術」と「広告」は、相容れるのか、反発しあうのか、それぞれの作家における試みや影響関係を、19世紀～20世紀初頭の作品を中心に見ていきます。 授業は小説や詩の抜粋をとりあげながら進めます。「広告」の描き方や、書かれた背景を比較しながら、最終回までに「広告」についての思考と分析の道筋をかたちづくらせてもらいます。期末レポートでは、授業内で扱った作品を最低でも一作、分析することを求めます。		(以下は授業計画であり、進行に応じてテーマや順番が変動する可能性があります。) 第1回：広告が埋めつくす世界 第2回：セールスマンの誕生 第3回：バルザック『名うてのゴディサール』 第4回：ポスターの芸術 第5回：ゾラ『広告の犠牲者』 第6回：第二帝政期のパリ 第7回：ヴィリエ・ド・リラダン『天空広告』 第8回：デパートの興隆 第9回：ゾラ『ボヌール・デ・ダム百貨店』 第10回：詩とイマージュの交錯 第11回：ロートレアモン『マルドロールの歌』 第12回：工業都市、パリ 第13回：アポリネール『アルコール』 第14回：広告とポップアート 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内プリント 参考文献は適宜指示する。		授業ごとの課題、期末レポート	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの文学 II フランス文学各論 b	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は、近代フランス文学の流れをひとつのテーマから切り取り、文化と社会の強い結びつきや、現代に通底する価値観を解き明かすことを目的としています。 秋学期は、「ミステリーの誕生」をテーマに、現代でも盛んに読まれているこのジャンルが、いつごろ成立したのかを学びます。ミステリーは単なる娯楽作品ではありません。19世紀における科学や犯罪捜査の発達、「探偵」や「刑事」などキャラクターの造形、伏線やサスペンスといった語りの工夫、書き手と読み手の知恵比べなど、複雑なコードがからみあって成立する新たな「物語」のかたちです。「匿名の群衆」のなかでの「アイデンティティ」という、重要なテーマを浮き彫りにするジャンルでもあります。 授業は短編や長編の抜粋をとりあげながら進めます。それぞれの作家における「犯罪」や「推理」というテーマの描き方や、書かれた背景を比較しながら、最終回までに「ミステリー」というジャンルについて、自分なりの定義や考察、批判を加えてもらいます。期末レポートでは、授業内で扱った作品を最低でも一作、分析することを求めます。		(以下は授業計画であり、進行に応じてテーマや順番が変動する可能性があります。) 第1回：ジャンルとしてのミステリー 第2回：フランス初の探偵 第3回：バルザック『幻滅』 第4回：監獄のシステム 第5回：デュマ『モンテ・クリスト伯』 第6回：警察とスパイ 第7回：ユゴー『レ・ミゼラブル』 第8回：名探偵デュパン 第9回：ポー『モルグ街の殺人』 第10回：殺人の報い 第11回：ゾラ『テレーズ・ラカン』 第12回：犯罪礼賛 第13回：ジュネ『花のノートルダム』 第14回：ベンヤミンの都市論 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内プリント 参考文献は適宜指示する。		授業ごとの課題、期末レポート。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化各論 I フランス文学各論 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では現代フランスの歌（シャンソン）を聞き、意味を調べ、実際に歌うことで、フランス語の発想や発音をただ単に知るだけではなく、実際に身につけることを目標とします。取り上げる作品は60年代のフランソワーズ・アルディー-Françoise Hardyやフランス・ギャルFrance Gallから始まって現在のものまで幅広く扱います。少しレベルが高いかもしれませんが、Diam'sのラップなども取り上げるかもしれません。 授業の進め方としては、一曲について調べてもらい、正確に歌詞を理解し、そして歌えるようになるためカラオケを使って練習します。皆さんのフランス語力が高ければ多くの曲に挑戦できると思います。 教科書的なフランス語だけでなく、口語的表現もふくめた本当に使われているフランス語を理解し、使えるようになるための講座です。 あたたった人は自分の担当する曲について歌詞の訳も含めて予習してくる必要があります。		1) フランス語の歌の発音およびシラブルの扱いについて、およびフランス語の歌を歌う場合の一般的注意 2) France Gall, poupée de cire, poupée de son (1) 3) 同 (2) 4) Françoise Hardy, tous les garçons et les filles (1) 5) 同 (2) 6) Serge Gainsbourg, la chanson de Prévert (1) 7) 同 (2) 8) Michel Polnareff, Tout, tout pour ma chérie (1) 9) 同 (2) 10) Jean Ferrat, La montagne (1) 11) 同 (2) 12) Barbara, Dis, quand reviendras-tu ? (1) 13) 同 (2) 14) 同 (3) 15) まとめ 皆さんからリクエストがあれば取り上げる場合もあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		学期末レポートと平常点（授業への参加度）、および実際の歌唱による。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化各論 II フランス文学各論 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では現代フランスの歌（シャンソン）を聞き、意味を調べ、実際に歌うことで、フランス語の発想や発音をただ単に知るだけではなく、実際に身につけることを目標とします。取り上げる作品は60年代のフランソワーズ・アルディー-Françoise Hardyやフランス・ギャルFrance Gallから始まって現在のものまで幅広く扱います。少しレベルが高いかもしれませんが、Diam'sのラップなども取り上げるかもしれません。 授業の進め方としては、一曲について調べてもらい、正確に歌詞を理解し、そして歌えるようになるためカラオケを使って練習します。皆さんのフランス語力が高ければ多くの曲に挑戦できると思います。 ともあれ教科書的なフランス語だけでなく、口語的表現もふくめた本当に使われているフランス語を理解し、使えるようになるための講座です。 あたたった人は自分の担当する曲について歌詞の訳も含めて予習してくる必要があります。		後期は古典と現在の作品を扱います。 1) Édith Piaf, Les amants d'un jour (1) 2) 同 (2) 3) Charles Trenet, Douce France (1) 4) 同 (2) 5) Lucienne Delyle, Mon amant de Saint Jean (1) 6) 同 (2) 7) Anaïs, Mon cœur mon amour (1) 8) 同 (2) 9) Carla Bruni, Quelqu'un m'a dit (1) 10) 同 (2) 11) Christophe Maé, On trace la route (1) 12) 同 (2) 13) Zaz, Je veux (1) 14) 同 (2) 15) まとめ リクエストがあれば取り上げる場合もあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		学期末レポートと平常点（授業への参加度）、および実際の歌唱による。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化各論Ⅰ フランス文学各論 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「パリ散策 ― 19 世紀フランス文学における「パリ」の表象」 19 世紀に近代都市として生まれ変わりつつあるパリは、例えばバルザック『人間喜劇』やボードレール『パリの憂鬱』、そしてユゴー『レミゼラブル』にいたるまで、主題として、あるいは背景として、多くの文学作品に描かれ、また絵画の主題にもなっています。 今回は、ネルヴァルの「十月の夜」を中心に読みながら、地図を頼りに、語り手と共にパリを散策し、現実から想像界へと変化するパリの街並みと登場人物たちを観察します。 余裕があれば、ユゴーの『ノートル＝ダム・ド・パリ』や『レミゼラブル』、あるいはボードレールの詩と比較しながら、パリがどのように描かれているかを見ましょう。		（下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。） 1：19 世紀フランスの文学と社会 2：文学と美術に共通するいくつかの主題 3：「パリ」の表象 (1) 4：「パリ」の表象 (2) 5：「パリ散策」(『十月の夜』) (1) 6：「パリ散策」(『十月の夜』) (2) 7：「パリ散策」(『十月の夜』) (3) 8：パリのポエジー (1) 9：パリのポエジー (2) 10：パリのポエジー(3) 11：「パリ散策」(『十月の夜』) (4) 12：「パリ散策」(『十月の夜』) (5) 13：「パリ散策」(『十月の夜』) (6) 14：まとめと展望（ネルヴァルの神話的主題について） 15：講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは随時プリントで配布する。 参考書は教室で随時指示する。		授業への参加度（参加と発表）、課題を前もって示す試験（レポート）。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化各論Ⅱ フランス文学各論 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「パリ散策 ― 19 世紀フランス文学における「パリ」の表象」 19 世紀に近代都市として生まれ変わりつつあるパリは、例えばバルザック『人間喜劇』やボードレール『パリの憂鬱』、そしてユゴー『レミゼラブル』にいたるまで、主題として、あるいは背景として、多くの文学作品に描かれ、また絵画の主題にもなっています。 今回は、ネルヴァルの「オーレリア」を中心にテキストを読みながら、19 世紀の作家がどのようにパリを表象していたのか、自伝をどのように表現していたのか、神話的テーマも含めて、読解します。 余裕があれば、同時代のバルザック、ユゴー、ボードレール、あるいは自伝文学の系譜をたどり、ルソー、等と比較します。		下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。） 1：19 世紀フランスの文学と社会（再論） 2：文学と美術に共通するいくつかの主題 3：「パリ」の表象 (1) 4：「パリ」の表象 (2) 5：「オーレリア」(1) 6：「オーレリア」(2) 7：「オーレリア」(3) 8：パリのポエジー (1) 9：パリのポエジー (2) 10：パリのポエジー(3) 11：「オーレリア」(4) 12：「オーレリア」(5) 13：「オーレリア」(6) 14：まとめと展望（ネルヴァルの神話的主題について） 15：講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは随時プリントで配布する。参考書は教室で随時指示する。		授業への参加度（参加と発表）、課題を前もって示す試験（レポート）。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランス詩を暗唱しましょう」 言語の運用能力を高めるには、まずは文章を暗記することが基本です。ことばのリズム、発音、抑揚をまるごと暗唱しましょう。暗唱するには、その努力に見合う美しいフランス語を選びましょう。フランス語の粋（すい）は詩にあります。 フランス詩は、声に出して読むために、暗唱するためにできています。美しい詩はおぼえやすくできています。詩はことばの音楽です。暗唱することによって、フランス詩の韻律を体感しましょう。「詩的快楽は（発声する）筋肉の歓び」（André Spire）です。 短くてやさしい抒情詩から、おぼえにくい長文の叙事詩へと、段階を追って進みます。フランス詩法や韻律を解説し、フランス詩をもとにフォーレやドビュッシーが作曲したフランス歌曲を紹介します。作曲家たち、あるいは歌手たちがどのように詩を解釈し、韻律を曲にしたて、そして歌っているかを分析します。（歌の才能に恵まれた人は自ら歌ってみてください、強制はしません。） 半年間でできるだけ多くの詩を暗記しましょう。		下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。） 1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介 2 フランス詩について（暗唱 Verlaine 1） 3 フランス詩法について 1（暗唱 Verlaine 2） 4 フランス詩法について 2（暗唱 Apollinaire 1） 5 詩の解説と暗唱 Baudelaire 1 6 詩の解説と暗唱 Baudelaire 2 7 詩の解説と暗唱 Baudelaire 3 8 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc 9 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc 10 フランス詩と歌曲（Verlaine et Fauré 1） 11 フランス詩と歌曲（Verlaine et Fauré 2） 12 フランス詩と歌曲（Baudelaire et Debussy 1） 13 フランス詩と歌曲（Baudelaire et Debussy 2） 14 詩の暗記と暗唱について（まとめ） 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度（参加と発表）、試験（できるだけ多くの詩句を暗記する）、あるいは課題を前もって示す試験（詩句の解釈と翻訳）。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランス詩を読みましょう」 フランス詩を暗唱することによって、韻律を体感し、詩的快楽を堪能してもらいます。 詩を暗唱するのと並行して、対象を徐々に短い抒情詩から長い叙事詩へと移行し、詩の物語性（あるいは神話的構造）に着目し、「詩を読む」てほどこきをします。 詩句における語の意味の広がり、語義の多層性、詩句の曖昧さと想像力、散文と韻文の違い、等々について、考えながら、Hugo, Nerval, Baudelaire, Apollinaire 等の代表的な詩を読み、そして聞きます。 詩句はさまざまに翻訳することができます。作曲家が詩句を解釈して音楽をつけたように、フランス詩を日本語に翻訳する場合にも、幾通りもの翻訳が可能であり、訳す楽しみがあります。翻訳するためには、正確な解釈が必要です、しかし、その解釈は一つではなく、翻訳に一つの正解はありません。できるだけ正確に、しかも自分のことばによる翻訳を楽しみましょう。（歌うためにも詩句の正確な解釈が必要です。） フランス詩を楽しむ機会はなかなかないでしょうから、授業への積極的な参加（出席と発表）を期待します。		下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。） 1 フランス文学における抒情詩と叙事詩 2 詩を読む Victor Hugo 1 3 詩を読む Victor Hugo 2 4 詩を読む Victor Hugo 3 5 詩を読む Victor Hugo 4 6 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 1 7 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 2 8 詩を楽しむ Gérard de Nerval 1 9 詩を楽しむ Gérard de Nerval 2 10 詩を楽しむ Gérard de Nerval 3 11 詩を楽しむ Apollinaire 1 12 詩を楽しむ Apollinaire 2 13 詩を楽しむ Apollinaire 3 14 詩と解釈、翻訳の問題（まとめ） 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度（参加と発表）、試験（できるだけ多くの詩句を暗記する）、あるいは課題を前もって示す試験（詩句の解釈と翻訳）。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。 同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。 講義概要： 授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。 一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。		1. ガイダンス＋テキスト配布＋訳読 2・15. 訳読	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点（毎回の発表）と定期試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点（毎回の発表）と定期試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をきちんと話したり書いたりできるようになりたかったら、まずはしっかりと読むことから始めないといけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。 今年度は、フランスのノーベル文学賞作家 Le Clézio が子ども向けに書いた短編小説集 « Mondo et autres histoires » から選んだものを読みます。文章は平易ですが、詩的イメージが溢れるほど盛り込まれているので、怠惰な想像力しか持ち合わせていない人にとってはひどく難しく感じるでしょう。 春学期は <i>Celui qui n'avait jamais vu la mer</i> を読む予定です。		1. 授業概要の説明、テキストの紹介 2～15. 講読	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配付。		平常点、学期末定期試験を総合的に勘案して評価。ただし、一度も授業中に訳を担当しなかった者は、試験の成績如何に関わらず F 評価とする。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。 秋学期は « Mondo et autres histoires » から <i>Peuple du ciel</i> を読む予定です。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
Maurice Leblanc の 創作した怪盗アルセーヌ・ルパンを主人公とする中編小説数編と演劇台本を読む。 授業は毎回、数人の学生に訳を担当してもらう。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は全員予習が必須である。受講者制限をする可能性があるのも、履修を希望する学生は必ず 1 回目の授業に出席すること。 仏和辞書についての注意:学習者用の辞書・電子辞書(Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど)では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典(大修館書店)やロワイヤル仏和中辞典(旺文社)などの中辞典が必要である。特に担当者は学習用辞書だけで予習し、「辞書に載っていませんでした」と言い訳することは許さない。自分で持っていない場合は、図書館で予習すること。		1 回目: 授業の概要の説明。作者紹介。人数過多の場合は簡単なテストで制限を行なう。 2: 講読。 3: 続きを読む。 4: 続きを読む。 5: 続きを読む。 6: 続きを読む。 7: 続きを読む。 8: 続きを読む。 9: 続きを読む。 10: 続きを読む。 11: 続きを読む。 12: 続きを読む。 13: 続きを読む。 14: 続きを読む。 15: まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Maurice Leblanc, <i>Trois histoires énigmatiques suivi de la pièce Une nouvelle aventure d'Arsène Lupin</i> , Libro, 2012		定期試験(8割程度)に授業への参加度(2割程度)を加味する。ただし、一度も授業中に訳を担当しない者は、試験の成績の如何に関わらず、不可とする。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。春学期からの継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は、特に行わない。		1 回目: 春学期の続きを読む。 2: 続きを読む。 3: 続きを読む。 4: 続きを読む。 5: 続きを読む。 6: 続きを読む。 7: 続きを読む。 8: 続きを読む。 9: 続きを読む。 10: 続きを読む。 11: 続きを読む。 12: 続きを読む。 13: 続きを読む。 14: 続きを読む。 15: まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
声に出して読むフランス語 フランス語で書かれたテキスト（文章など）を、聞いただけでわかるように読むことを目指します。授業でも、実際に繰り返し声に出して読んでいただきます。 読む本人がわかっていなければ、聞いているひとがわかることは非常に難しいでしょう。 書かれたテキストの意味をとらえ、ひとに伝える力を、実践をとおして身につけていきます。 今年度は昨年生誕 100 周年を迎えたアルベール・カミュ Albert CAMUS（1913 年～1960 年・1957 年ノーベル文学賞受賞）の作品をとりあげます。 春学期は小説 1：『異邦人』 <i>L'Etranger</i>（1942 年）・『ペスト』 <i>La Peste</i>（1947 年）・『転落』 <i>La Chute</i>（1956 年）。		1. ガイダンス 2. 『異邦人』 1 3. 『異邦人』 2 4. 『異邦人』 3 5. 『異邦人』 4 6. 『異邦人』 5 7. 『異邦人』 6 8. 『ペスト』 1 9. 『ペスト』 2 10. 『転落』 1 11. 『転落』 2 12. 『転落』 3 13. 『転落』 4 14. 『転落』 5 15. 『転落』 6	
テキスト、参考文献		評価方法	
使用教材は担当者が用意します。 参考文献はガイダンスで紹介します。		毎回の授業をとおしておこないます。（授業に出てこない場合の成績評価は 3 年生は F または X、4 年生は FG または X になります。）	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照 秋学期は戯曲『カリギュラ』 <i>Caligula</i>（1944 年）をとりあげます。		1. ガイダンス 2. 導入部 1 3. 導入部 2 4. 導入部 3 5. 導入部 4 6. 展開部（1） 1 7. 展開部（1） 2 8. 展開部（1） 3 9. 展開部（2） 1 10. 展開部（2） 2 11. 展開部（2） 3 12. 結末部 1 13. 結末部 2 14. 結末部 3 15. 結末部 4	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期参照		春学期参照	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Lire ensemble à une ou plusieurs voix Contenu : Nous lirons ensemble <i>L'analphabète</i> de Agota Kristof. Agota Kristof est une écrivaine hongroise, mais elle a écrit ses livres en français, car à partir de l'âge de 21 ans elle a, malgré elle, habité en Suisse. <i>L'analphabète</i> est un récit très court, autobiographique. Les thèmes évoqués dans ce texte abordent l'enfance heureuse, la pauvreté après la guerre, la solitude à l'école (dans un internat), la langue maternelle et les langues « ennemies », la fuite à l'étranger à cause de la guerre. Une fois que les pages lues ensemble auront été comprises, nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ».		1. Présentation du cours et des objectifs 2. Quelques éléments historiques pour situer l'histoire du livre 3. Lecture des pages 5-6-7 4. Lecture des pages 8-9-10 5. Lecture des pages 11-12-13 6. Présentation d'une mini bibliothèque de 4 livres 7. Lecture des pages 14-15-16 8. Lecture des pages 17-18-19 9. Lecture des pages 20-21-22 10. Lecture des pages 23-24 11. Lecture des pages 25-26 12. Lecture des pages 27-28-29 13. Lecture des pages 31-32 14. Lecture des pages 33-34-35 15. Bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière et participation active au cours Contrôle continu	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス芸術文化講読 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Nous continuerons la lecture de <i>L'analphabète</i> commencée en avril. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre, ci-dessus. Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises. Puis, nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, tout seul, pendant "les grandes vacances". Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes afin de parvenir à une meilleure compréhension du texte. Très IMPORTANT : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont invités à suivre le cours pendant le deuxième semestre. Je conseille aux nouveaux étudiants, qui souhaiteraient suivre ce cours seulement à partir du mois de septembre, de venir me voir avant les vacances d'été afin que je leur remette le texte dont la lecture a commencé en avril.		1. Présentation/Rappel des objectifs du cours et résumé des pages lues durant le premier semestre 2. Présentation de l'auteur et de son œuvre 3. Lecture des pages 37-38-39 4. Lecture des pages 41-42-43 5. Lecture des pages 44-45 6. Lecture des pages 46-47 7. Lecture des pages 48-49 8. Lecture des pages 51-52 9. Lecture des pages 53-54-55 10. Exposé sur le livre 1 11. Exposé sur le livre 2 12. Exposé sur le livre 3 13. Exposé sur le livre 4 14. Lecture à haute voix d'une des pages préférées de <i>L'analphabète</i> 15. Bilan	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix. Un rapport à la fin du semestre Présence régulière et participation active au cours Contrôle continu	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、一冊の小説をとりあげ、その作品が生み出されに至った時代背景、作者特有の文体のテクニク、物語の構造などを、ひとりひとりが深く読みこむことで、フランス語で読む力、日本語で分析する力を養います。 春学期は、作家、詩人、ジャズ・トランペッターとして活躍し、39歳で夭逝したボリス・ヴィアンの代表作、『うたかたの日々』を読みます。昨年『ムード・インディゴ』というタイトルで日本でも映画が公開されました。 20世紀半ばのパリを舞台に、ありえないオブジェやナンセンスな展開が次々に登場する、シュールで遊び心に満ちた物語は、「現代でもっとも悲痛な恋愛小説」と評される美しい作品でもあります。ジャズ、極上の料理、新居など、恋愛から生まれるすべての美しいものが、社会のあらゆる醜いものにおしつぶされていくさまは、フランス語で熟読玩味してこそ、切なく味わい深いものです。 原書を購入のうえ、必ずひとり一回訳読を担当し、解説を加えてもらいます。翻訳を通読しておくともよい。		(以下は授業計画であり、進行に応じてテーマや順番が変動する可能性があります。) 第1回：イントロダクション 第2回：デューク・エリントンのジャズ 第3回：ニコラの料理 第4回：クロエ 第5回：恋人たちのスケート 第6回：結婚式 第7回：ハネムーン 第8回：胸に咲く睡蓮 第9回：ジャン・ソール・バルトル 第10回：働くコラン 第11回：狭まるアパルトマン 第12回：本屋の炎上 第13回：葬列 第14回：ハツカネズミの自殺 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Boris Vian, <i>L'Écume du jour</i> ボリス・ヴィアン『うたかたの日々』、野崎歓訳、光文社文庫「古典新訳シリーズ」		授業参加度（訳読と発表）、期末レポート	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、一冊の小説をとりあげ、その作品が生み出されに至った時代背景、作者特有の文体のテクニク、物語の構造などを、ひとりひとりが深く読みこむことで、フランス語で読む力、日本語で分析する力を養います。 秋学期は、ジュール・ヴェルヌの「驚異の旅」シリーズのなかの名作、『八十日間世界一周』を取り上げます。この長編はけっして子供向けの冒険物語ではなく、科学と想像力をみごとに融合させた緻密な構成の作品です。 正確無比のイギリス紳士フォッグ、インドの淑女アイダ、召使パスパルトゥーなどの秀逸なキャラクターはよく知られていますが、時刻表、汽車、観光ガイドなど、当時ならではのオブジェもまた物語の重要なカギとなります。 人はなぜ異国に出かけるのか。「旅」と「観光」はどう違うのか。なぜ「驚異の旅」シリーズが次々生み出され、読まれたのか。80日間で世界一周ははたしてそんなに難しいことなのか。植民地政策によって世界がせばまり、科学と文学がせめぎあう時代に生まれたこの本には、上記の疑問に痛快に答える、息もつかせぬ展開が待っています。		(以下は授業計画であり、進行に応じてテーマや順番が変動する可能性があります。) 第1回：イントロダクション 第2回：サヴィル・ロウ7番地 第3回：召使パスパルトゥー 第4回：「革新クラブ」での賭け 第5回：世界一周の旅へ 第6回：フィックス刑事 第7回：インドでの冒険 第8回：アイダ救出 第9回：日本への寄り道 第10回：北米、列車の旅 第11回：大西洋横断 第12回：リヴァプール発の列車 第13回：フォッグ氏のパンチ 第14回：賭けのゆくえ 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jules Verne, <i>Le Tour du monde en 80 jours</i> ヴェルヌ『八十日間世界一周』、鈴木啓二訳、岩波文庫		授業参加度（訳読と発表）、期末レポート。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス地域論 I フランスの地誌 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの地域の枠組みおよび主体としての公共団体は我が国のそれと比較した場合に、類似する側面とある意味で反対の側面をもっている。学期の前半では、フランスの地方の制度の実態と特徴を学び、地域のあり方について考える。 フランスの地域の枠組みとしての現代の地方制度を理解した上で、それがもつ意味を、その成立の経緯を通して学ぶ。まず、旧プロヴァンスを基本的に否定する地方制度として誕生した現代のデパルتمانの成立の経緯とそれに託された意味を考える。次に、広域の地方としてのレジオンの成立の経緯とその意味を考察する。さらに、日本の市町村に対応する基礎的自治体としてのコミューヌの実情およびその合併と連合を通して、身近な地域の枠組みのあり方について考える。 学期の後半では、地域における生活を支える小売り商業とその中心地の変化およびそれに伴う問題への対応について学び、地域と小売り商業のあり方について考える。		1. 講義概要の説明 2. 地域の枠組み 3. 海外フランス 4. プロヴァンスから近代のデパルتمانへ 5. レジオンの誕生 6. 基礎自治体としてのコミューヌ 7. コミューヌの合併と連合（1） 8. コミューヌの合併と連合（2） 9. コミューヌの合併と連合（3） 10. 中間のまとめ 11. 地域と商業中心（1） 12. 地域と商業中心（2） 13. 地域と商業中心（3） 14. 地域と商業中心（4） 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		試験またはレポートの結果によって評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス地域論 II フランスの地誌 b	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの地域および社会を幾つかの主題を通して学ぶことによって、その実態を知ると同時に、地域と社会をめぐる問題について考える。 講義の主題と概要はおおよそ以下の通りである。 まず、現代フランス社会における若者の意識をアンケート調査結果を通して窺い、その背景について考える。 次に、フランスの大都市郊外部などに見られる、経済、生活、社会、住環境などの水準が低下した地域の再生に向けた『都市政策』の取り組みを通して、現代フランスの地域社会について学ぶ。 さらに、地域の物的な環境を景観と住まいの視点から学び、その特徴について考える。 また、フランスの地域および社会における活動の主体としてのアソシアションすなわち非営利団体の制度および実態について学び、その可能性について考える。		1. 講義概要の説明 2. 地域と社会：若者の意識（1） 3. 地域と社会：若者の意識（2） 4. 地域と社会：若者の意識（3） 5. フランスの都市政策（1） 6. フランスの都市政策（2） 7. フランスの都市政策（3） 8. フランスの都市政策（4） 9. フランスの都市政策（5） 10. 中間のまとめ 11. アソシアション（1） 12. アソシアション（2） 13. 都市空間と住まい（1） 14. 都市空間と住まい（2） 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		試験またはレポートの結果によって評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの歴史 I フランスの歴史 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の概説講義です。古代、中世、近世の各時代を概観します。全体を通じて、フランスの歴史的特質を理解することを目標とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2. 古代 1 : ケルト時代 3. 古代 2 : ガロ＝ローマ時代 4. 古代 3 : 古代まとめ 5. 中世 1 : 初期中世 6. 中世 2 : 盛期中世 7. 中世 3 : 後期中世 8. 中世 4 : 中世まとめ 9. 近世 1 : 16 世紀 10. 近世 2 : 17 世紀 11. 近世 3 : 18 世紀 12. 近世 4 : フランス革命 13. 近世 5 : 近世まとめ 14－15. 全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、まとめテスト	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの歴史 II フランスの歴史 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
前半は、フランス 19 世紀史を概観します。後半は、フランス史の具体的なテーマを論じます。今回はシャルルマーニュとアンリ四世を取り上げ、彼らのイメージの変遷をたどりながら、近代に形成される国民史のなかで彼らが持った意味について考えます。		1. 授業ガイダンス 2. 19 世紀 (1) 3. 19 世紀 (2) 4. 19 世紀 (3) 5. 19 世紀 (4) 6. シャルルマーニュ (1) 7. シャルルマーニュ (2) 8. シャルルマーニュ (3) 9. シャルルマーニュ (4) 10. アンリ四世 (1) 11. アンリ四世 (2) 12. アンリ四世 (3) 13. アンリ四世 (4) 14－15. 全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点、まとめテスト	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの政治経済 I フランスの政治経済 a	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。 初めにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。 政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。		1. フランス政治史① 2. フランス政治史② 3. フランス政治史③ 4. 現代フランスの政治システムの概要 5. 議会 6. 官僚制 7. 政党システム① 8. 政党システム② 9. 政党システム③ 10. 選挙 11. 政治的リーダーシップ 12. 政策決定過程 13. 社会運動 14. 中央-地方関係 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		小テスト（10%×2）＋期末テスト（80%）	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの政治経済 II フランスの政治経済 b	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学習します。 2006 年にフランスはスウェーデンを追い越し世界最大の福祉国家になりました（対 GDP 比）。公的年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治家にとっても有権者にとっても最大の関心事の一つです。いまや社会保障は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。日本も人口の高齢化・政府の財政難・雇用の不安定化などの問題に直面し、社会保障改革が喫緊の課題になっています。 そこでこの講義ではまず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革動向について解説します。 講義と試験を通じて、学期の終わりには年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。		1. 講義目的と概要の説明 2. フランスの社会保障システム 3. フランスの経済・人口・社会の動向 4. 年金① 5. 年金② 6. 中間まとめ 7. 医療保険① 8. 医療保険② 9. 高齢者介護 10. 雇用政策（失業・非正規雇用・若者の就職） 11. 最低所得保障（生活保護）① 12. 最低所得保障（生活保護）② 13. 家族政策（児童手当・保育サービス） 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		中間テスト（30%）＋期末テスト（70%）	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの政治経済 I フランスの政治 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムや経済の特徴について学ぶことは有益だと言えるだろう。本講義は、フランスの政治経済についての基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、フランスの政治経済の変遷を歴史的に辿るとともに、現在の政治制度や経済の状況についても学ぶ。		1. 講義の概要 2. 第二帝政以前の政治 3. 第二帝政以前の経済 4. 第三共和制からヴィシー期の政治 5. 第三共和制からヴィシー期の経済 6. 第四共和制期の政治 7. 第四共和制期の経済 8. 第五共和制の成立と政治制度 9. ドゴールからポンピドゥーへ 10. ジスカールデスタン時代の政治経済 11. ミッテラン時代の政治経済 12. シラク時代の政治経済 13. 現在のフランスの政治経済(1) 14. 現在のフランスの政治経済(2) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

08 年度以降 07 年度以前	フランスの政治経済 II フランスの政治 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を果たしてきた。本講義では、第2次大戦以前から今日の EU に至るまでの過程において、ヨーロッパ統合という構想にフランスがどのように関わってきたかを学ぶ。		1. 講義の概要 2. 戦前の統合構想(1) 3. 戦前の統合構想(2) 4. 第2次大戦期の統合構想とフランス 5. 戦後復興と経済近代化 6. シューマン・プランと ECSC 7. 欧州防衛共同体構想とフランス 8. EEC の設立に向けて 9. ドゴールとヨーロッパ統合(1) 10. ドゴールとヨーロッパ統合(2) 11. 1970 年代のフランスと統合(1) 12. 1970 年代のフランスと統合(2) 13. ミッテラン時代の統合政策 14. EU 誕生から今日まで 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献：吉田徹編『ヨーロッパ統合とフランス』法律文化社、2012 年		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代思想 I フランスの思想 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
この講座ではフランスの現代思想を中心に、19世紀以来ヨーロッパの思想はどのように展開してきたかを概観します。 フランス現代思想は三人のドイツ人思想家の影響を深く受けています。マルクス、ニーチェ、フロイトです。この講座では春学期にこれらの思想家がどのようなことを考え、その後のヨーロッパの歴史にどのような影響を与えたかをまず考察します。具体的にはマルクスの「共産党宣言」(28歳の作品だということを忘れないでください)、ニーチェの「ツァラトストラ」の抜粋を読み、そして次にフロイトの精神分析とはどのようなものなのかをテキストを参照しながら見ていきます。そして最後にこれらのドイツ思想がフランスに影響を与えるようになった過程について、アレクサンドル・コジューヴがコレージュ・ド・フランスで行った有名なヘーゲル講義などに触れながら述べます。		1) イン트로ダクション 2) 「共産党宣言」を読む 1. 3) 同 2 4) 同 3 5) 同 4 6) ニーチェを読む 1 7) 同 2 8) 同 3 9) 同 4 10) フロイトを読む 1 11) 同 2 12) 同 3 13) 同 4 14) ドイツ思想から現代フランス思想へ 15) まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の際、指示します。		学期末レポートおよび授業への参加度によって評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代思想 II フランスの思想 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期はサルトルに代表される実存主義から構造主義への流れを歴史的に概観し、現代フランスの思想、とくにジャック・ラカン、バタイユ、レヴィナス、デリダのテキストなどを読んでいきます。 まだ十分に意識されていませんが、20 世紀後半のフランス思想は、多くの独創的思想家が出現した非常に豊かな時代だったと評価されることになるでしょう。いわゆる「リベラリズム」(市場を中心として世界の仕組みを変えていこうとする考え方) が支配する現代世界において、フランス思想はそれとは全く異なる考え方を提案しています。どのような考え方でしょうか? この授業では、今挙げた思想家たちのテキストをフランス語で読みながら、具体的に彼らの思想と世界に対するインパクトを検討してゆきます。		1) サルトルの「実存主義」について (1) 2) ソシュールの言語思想 3) 精神分析と言語—ジャック・ラカン (1) 4) 同 (2) 5) 禁忌と違反—ジョルジュ・バタイユ (1) 6) 同 (2) 7) 文学への問いかけ—モーリス・ブランショ (1) 8) 同 (2) 9) 同 (3) 10) ユダヤ的なものとは何か?—エマニュエル・レヴィナスの衝撃 (1) 11) 同 (2) 12) デリダの <i>déconstruction</i> (1) 13) 同 (2) 14) フランス現代思想がもたらしたものとは何か? 15) まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の際指示します		学期末レポートおよび授業への参加度によって評価します。	

13 年度以降 08~12 年度	フランス語圏の現代社会Ⅰ 現代フランス論Ⅰ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義ではフランス社会の様々な不思議な点、より正確には日本と異なる点に着目して、そうした違いがなぜ生じているのかについて比較社会科学的に考えていきます。 身近な例では、フランスに行くときと歩行者があまり信号を守らないので驚きます。反対に、なぜ日本の歩行者はほとんど車が走っていないような交差点でも信号待ちをしているのでしょうか。ここで「国民性の違い」や「文化の違い」と言ってみてもあまり説得力がありません。人々の「性格」は一人ひとり異なりますし、「文化」も国内の地域によって異なっているはずです。 この講義ではこうした曖昧な説明から一歩先に進んで、異なる社会における慣習や制度の違いを合理的かつ説得的に説明する方法について解説します。とりあげる予定のテーマは右の授業計画の通りです。これらのテーマの検討を通じてフランス社会に対する理解（そして日本社会に対する理解）が一段と深まるはずです。 学期の後半には受講者の皆さんに研究テーマを決めてもらい、成果を発表していただく予定です。		1. ガイダンス——不思議の国フランス？ 2. 比較社会科学の方法論 3. なぜ政教分離をめぐる延々と議論が続くのか 4. なぜいつでもどこでもストに出会うのか 5. なぜ標識がバイリンガル表記なのか 6. なぜマクドナルドを「解体」すると拍手喝采されるのか 7. なぜアメリカを目の敵にするのか 8. なぜ大学生がストライキをするのか 9. なぜ美味しいフォーやクスクスが食べられるのか 10. なぜ原発大国なのか 11. なぜ消費税率が高いのか 12. なぜ出生率が高いのか 13. なぜ極右政党が存在するのか 14. 受講者による研究発表 15. 受講者による研究発表	
テキスト、参考文献		評価方法	
小田中直樹『フランス7つの謎』文春新書、2005 年。		①毎回コメントシートを配布して平常点（単なる出席点ではありません）を評価します（50%）。 ②グループまたは個人での研究発表（50%）。	

13 年度以降 08~12 年度	フランス語圏の現代社会Ⅱ 現代フランス論Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義ではフランスにおける移民政策、外国人の権利、移民排斥主義の展開、そして移民と福祉国家の関係について考察します。 フランスを含めた大陸ヨーロッパ諸国は充実した社会保障制度（年金、医療、最低所得保障制度など）を有する福祉国家であるとされています。他方、ヨーロッパでは移民の排斥あるいは受入国の文化への同化を強く求める右翼政党が無視できない支持を集めています。フランスの国民戦線（Front national）をはじめ、これらの右翼政党のなかには自国民への手厚い福祉とともに外国人の排除を主張する傾向が見られます。 以上のような問題関心から、この講義ではまず移民政策の概要を解説し、その後で移民問題が福祉国家としてのフランスに与える影響と、反対に福祉国家としてのフランスのあり方が移民政策に与える影響に焦点を合わせていきます。		1. 講義目的と概要の説明 2. フランスの移民政策の展開① 3. フランスの移民政策の展開② 4. フランスの移民政策の展開③ 5. フランスにおける外国人の権利① 6. フランスにおける外国人の権利② 7. 中間まとめ 8. フランスにおける移民排斥主義の展開① 9. フランスにおける移民排斥主義の展開② 10. フランスにおける移民排斥主義の展開③ 11. 移民問題と福祉国家の相互作用① 12. 移民問題と福祉国家の相互作用② 13. 移民問題と福祉国家の相互作用③ 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		中間テスト（30%）＋期末テスト（70%）	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会各論 I フランス文化・社会各論 a	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
La francophonie dans l'océan Pacifique sud : Nouvelle-Calédonie, Vanuatu, Wallis et Futuna et Polynésie française. Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas des territoires francophones du Pacifique sud, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines différentes. Le respect de la différence est-il possible ? Est-il souhaitable ? Le cours se concentrera sur le cas de la Nouvelle-Calédonie. Le contenu du cours pourra varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il faut avoir une bonne connaissance du français et de sa grammaire et un grand intérêt pour les questions sociales... même sous le soleil des îles !		1. Introduction générale 2. Données géographiques de l'océan Pacifique. 3-6. Aperçu géographique et économique de la Nouvelle-Calédonie. 7-9. Aperçu géographique et économique du Vanuatu. 10-11. Aperçu géographique et économique de Wallis et Futuna. 12-13. Aperçu géographique et économique de la Polynésie française. 14. La question des essais nucléaires en Polynésie française. 15. Conclusions du premier semestre.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films. Voir le site internet de l'Université Laval sur la francophonie.		Variable selon le nombre des étudiants : examen ou rapport en fin de semestre.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会各論 II フランス文化・社会各論 b	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
La francophonie dans l'océan Pacifique sud : La société en Nouvelle-Calédonie Voir ci-dessus la présentation du cours. Après une introduction sur l'arrivée de différents peuples dans l'océan Pacifique sud, Le deuxième semestre est consacré à la Nouvelle-Calédonie et plus spécialement à la coexistence des différentes communautés, dans une approche historique.		1. Bilan du 1^{er} semestre et introduction du second. 2. Le peuplement de l'océan Pacifique. 3. La découverte par les Européens du Pacifique. 4. La colonisation occidentale du Pacifique. 5. La découverte de la Nouvelle-Calédonie. 6. La société kanake au moment de la découverte. 7-8. Les immigrations en Nouvelle-Calédonie. 9. Résistance et révoltes des Kanaks. 10. La Seconde Guerre mondiale. 11. Émancipation juridique des Kanaks. 12. Conflits ouverts des années 80. 13. Les accords de Matignon et de Nouméa. 14. Perspectives d'avenir : l'indépendance ou non ? 15. Conclusions	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films.		Variable selon le nombre des étudiants : examen ou rapport en fin de semestre.	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。 講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学ぶ。年間の講義時間を考慮して、春学期に取り上げる遺産は2件程度とし、前年度読んでいないものを取り上げる。 講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメントや補足説明などを行う形で進める。		1. 講義概要の説明 2. 世界遺産制度（1） 3. 世界遺産制度（2） 4. 世界遺産制度（3） 5. 世界遺産制度（まとめ） 6. 中世市場都市プロヴァン（1） 7. 中世市場都市プロヴァン（2） 8. 中世市場都市プロヴァン（3） 9. 中世市場都市プロヴァン（4） 10. 中世市場都市プロヴァン（まとめ） 11. ノール＝パ・ド・カレーの鉱業盆地（1） 12. ノール＝パ・ド・カレーの鉱業盆地（2） 13. ノール＝パ・ド・カレーの鉱業盆地（3） 14. ノール＝パ・ド・カレーの鉱業盆地（4） 15. ノール＝パ・ド・カレーの鉱業盆地（まとめ） 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果および授業中の発表を考慮して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。 講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学びます。年間の講義時間を考慮して、秋学期に取り上げる遺産は3件程度とし、前学期および前年度とは異なるものを取り上げる 講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進める。		1. 講義概要の説明 2. ヴォーバンの防御施設（1） 3. ヴォーバンの防御施設（2） 4. ヴォーバンの防御施設（3） 5. ヴォーバンの防御施設（4） 6. ヴォーバンの防御施設（5） 7. ヴォーバンの防御施設（6） 8. まとめ 9. フォントネーのシトー会修道院（1） 10. フォントネーのシトー会修道院（2） 11. フォントネーのシトー会修道院（3） 12. フォントネーのシトー会修道院（4） 13. フォントネーのシトー会修道院（5） 14. フォントネーのシトー会修道院（6） 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果および授業中の発表を考慮して評価する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランスの文化・社会購読 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料を読む予定です。前期は中世史から 3 章を選んで読みます。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目標とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2－5. Les rois mérovingiens étaient-ils des « rois fainéants » ? 6－9. La reine Mathilde a-t-elle réalisé la « Tapisserie » de Bayeux ? 10－13. Le bal des ardents. 14－15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点、まとめテスト	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランスの文化・社会購読 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料を読む予定です。後期は近代史から 3 章を選んで読みます。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目標とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2－5. À Valmy, les Prussiens ont-ils eu peur des Français ? 6－9. Lamartine sauve le drapeau tricolore. 10－13. Les Parisiens assiégés mangent du rat ! 14－15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点、まとめテスト	

08 年度以前 07 年度以降	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
「大聖堂の歴史と文化 ― ノートル・ダム・ド・パリ」 フランス 19 世紀の作家ヴィクトル・ユゴー『ノートル・ダム・ド・パリ』を読みながら、キリスト教文化の華であるパリ大聖堂の歴史と文化をたどり、フランス現代社会の諸問題を考える契機をみつけましょう。 聖母崇拜がなぜ中世に流行したのか。ゴシック様式の大伽藍がなぜ必要になったのか。大聖堂の空間はどのように使われてきたか。宗教と文化、民衆教育、差別と救済、貧困、等の諸問題を大聖堂から考えていきます。 遠く時代を離れた「暗黒の中世」を再発見しつつ、ユゴーは、時代に先駆けて文化遺産の保存と修復を訴えます。また、新古典主義と対立するロマン派の美学を提唱します。「グロテスク」の美学がどのように表現されているかを、作品から読み解きます。 テキストの読解を通じて、「現代社会」を読み解く鍛錬になることを期待します。		下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。) 1: フランスの社会・歴史・文学 2: パリ大聖堂について(1) 3: パリ大聖堂について(2) 4: 聖母信仰について(1) 5: 聖母信仰について(2) 6: 大聖堂の文化史(1) 7: 大聖堂の文化史(2) 8: 大聖堂の文化史(3) 9: ユゴー『ノートル・ダム・ド・パリ』読解(1) 10: ユゴー『ノートル・ダム・ド・パリ』読解(2) 11: ユゴー『ノートル・ダム・ド・パリ』読解(3) 12: 19 世紀における中世再発見 (1) 13: 19 世紀における中世再発見 (2) 14: まとめと展望 15: 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
使用テキスト: Victor Hugo, <i>Notre-Dame de Paris</i>, 1831. 参考: 『フランス文化読本』、丸善出版		授業への参加度 (参加と発表)、課題を前もって示す試験 (レポート)。	

08 年度以前 07 年度以降	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
歴史を描く ― パンテオンの幻の壁画」 教会として創建されたパリの「パンテオン」が、「偉人殿」として非宗教的な記念建築物 (モニュマン) になった歴史的経緯をたどりながら、政治と宗教との力学を検討します。 ついで、パンテオンの内部装飾として、二月革命のさなかに構想されたシュナヴァールの壁画に、どのような「人類の歴史」が描かれようとしたのかを、ゴーチエの批評文を手がかりに復原して見ることによって、「歴史」(そして歴史画) の思想的背景を知ることができます。 描き出された「人類の歴史」を通じて、フランス社会の底流にある世界観・人間観を知ることが目的です。 歴史画とテキストの読解を通じて、「現代社会」を読む鍛錬になることを期待します。		(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。) 1: フランスの社会・歴史・文学 2: 「歴史」をどのように描くか 3: パンテオン (万神殿) の構想 (1) 4: パンテオン (万神殿) の構想 (2) 5: ポール・シュナヴァールの壁画 (1) 6: ポール・シュナヴァールの壁画 (2) 7: ポール・シュナヴァールの壁画 (3) 8: ゴーチエの批評について 9: ゴーチエ解説文の読解 (1) 10: ゴーチエ解説文の読解 (2) 11: ゴーチエ解説文の読解 (3) 12: 人類普遍の神話と社会の輪廻転生 (1) 13: 人類普遍の神話と社会の輪廻転生 (2) 14: まとめと展望 15: 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
使用テキスト: Théophile Gautier, « "Le Panthéon, peintures murales par Chenavard », 1848. 参考書は教室で指示する。		授業への参加度 (参加と発表)、課題を前もって示す試験 (レポート)。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
第三共和制期の1880年から教育相を務めたジュール・フェリーの改革により、フランスの教育システムは大きく変化した。本講義では、フランス語の文献を通じて、第三共和制下の子どもたちを取り巻く環境がいかなるものだったかを見て行こう。 本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読むことにより、社会科学系の文章に慣れるとともに、文章の要旨を把握する力を鍛えることにある。授業では、訳の担当者はランダムに決めるため、簡単に予習をした上で授業に臨んでほしい。		1. 講義の概要 2. 第三共和制期以前の初等教育 3. 普仏戦争の敗北とアルザス 4. ジュール・フェリーについて 5. 初等教育の無償化 6. 学校の建設 7. 十字架像の撤去 8. 授業風景 9. 初等教育のカリキュラム 10. 小学校教諭の役割 11. 子どもの生活の変化 12. 子どもの生活：エヌ県のアランの例 13. フェリーの教育政策の影響 14. 初等教育修了証明書 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		授業への貢献度（30％）と複数回の小テスト（70％）で評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、1950年代のフランス社会に関する文献を読む。フランスは第2次大戦後、「栄光の30年」と呼ばれる高度経済成長時代を経験し、とりわけ1950年代半ばからは本格的な消費社会に突入した。この時期にフランスの国民はどのような生活の変化を経験したのだろうか。 本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読むことにより、社会科学系の文章に慣れるとともに、文章の要旨を把握する力を鍛えることにある。授業では、訳の担当者はランダムに決めるため、簡単に予習をした上で授業に臨んでほしい。		1. 講義の概要 2. 1950 年代の政治経済(1) 3. 1950 年代の政治経済(2) 4. 1950 年代の家族 5. フランス人の生活とテレビ 6. 都会の生活 7. 田舎の生活 8. 農家の子どもたち 9. 1950 年代の学校(1) 10. 1950 年代の学校(2) 11. 放課後の子どもたち 12. 海外県の生活 13. ヴァカンスの大衆化 14. Colonie de vacances とは 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		授業への貢献度（30％）と複数回の小テスト（70％）で評価します。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ルソーの社会契約論 (le contrat social) を読みます。 この本は民主主義を理論的に定義した本として有名で、フランス革命の指導者たちが賞揚したことはよく知られています。しかしよく言われるように、この本は第一部だけ読んで理解したつもりになっている人が多いのも事実です。この授業では、第一部だけでなく、本全体を読んで、ルソーの主張はどのようなものであったかを私たち自身で捉え直してみたいと思っています。もちろん本全体を読むのは無理なので、非常に重要な部分を抜粋して読んでいきます。 大切なのは自分で考えることです。この授業では自分の頭で考えるという、これまで日本の教育では重要視されなかったことに重点を置き、ルソーの読解を通して改めて「民主主義」とはなにかを考えます。それは現在とても必要なことだと私は思っています。		春学期は「社会契約論」の第一部を読みます。 1) 「社会契約論」の歴史的意義(この講座についての説明) 2) chapitre1 3) chapitre2 4) chapitre3 5) chapitre4 (1) 6) chapitre4 (2) 7) chapitre5 8) chapitre6 (1) 9) chapitre6 (2) 10) chapitre6 (3) 11) chapitre7 (1) 12) chapitre7 (2) 13) chapitre8 14) chapitre 9 (1) 15) chapitre 9 (2) と全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jean-Jacques Rousseau, le contrat social, Flammarion, collection GF		学期末レポートおよび授業への参加の度合いによって評価します	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ルソーの社会契約論 (le contrat social) を読みます。 この本は民主主義を理論的に定義した本として有名で、フランス革命の指導者たちが賞揚したことはよく知られています。しかしよく言われるように、この本は第一部だけ読んで理解したつもりになっている人が多いのも事実です。この授業では、第一部だけでなく、本全体を読んで、ルソーの主張はどのようなものであったかを私たち自身で捉え直してみたいと思っています。もちろん本全体を読むのは無理なので、非常に重要な部分を抜粋して読んで行きます。 大切なのは自分で考えることです。この授業では自分の頭で考えるという、これまで日本の教育では重要視されなかったことに重点を置き、ルソーの読解を通して改めて「民主主義」とはなにかを考えます。それは現在とても必要なことだと私は思っています。		秋学期は第 2 部を中心に読みます。 1) chapitre 2.1 2) chapitre 2.2 (1) 3) chapitre 2.2 (2) 4) chapitre2.3 5) chapitre 2.5 (1) 6) chapitre2.5 (2) 7) chapitre2.6 (1) 8) chapitre2.6 (2) 9) chapitre2.7 (1) 10) chapitre2.7 (2) 11) chapitre3.1 (1) 12) chapitre3.1 (2) 13) chapitre3.1 (3) 14) chapitre3.4 (1) 15) chapitre3.4 (2) とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jean-Jacques Rousseau, le contrat social, Flammarion, collection GF 必要に応じてプリントを配布します。		学期末レポートおよび授業への参加の度合いによって評価します	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	M. デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours, destiné aux étudiants de troisième et de quatrième année, vise principalement à développer les compétences de l' étudiant pour expliquer et comprendre un texte court en français d' un niveau relativement facile. Nous utiliserons des textes français qui montrent essentiellement le mode de vie quotidien et les problèmes sociaux que peuvent connaître les jeunes français actuellement, qu'ils soient étudiants ou non. Ce cours peut donc donner aux étudiants japonais une image concrète de leurs homologues français et leur faire découvrir les conditions de vie en France. このクラスは3・4年生向けで、比較的簡単で短めのテキストを理解し、説明できるようになることを主な目標とします。テキストは現代のフランスの学生やその他若者が直面している社会問題や日常生活について書かれたものを使用します。この授業を通して日本の学生達には同じ年代のフランス人達について具体的なイメージを持ち、フランスでの生活の状況を発見してもらいたいと思っています。		Au cours du premier semestre, nous travaillerons sur des textes courts. Nous utiliserons, bien entendu, des articles de journaux simples comme ceux provenant de sources telles que le «Journal des enfants», «20 minutes», «Métro», «Le Parisien», etc. 1. Présentation du cours. 2. L'école primaire par les manuels (1- La France au quotidien, PUG) 3. L'école primaire par les manuels (2- La France au quotidien, PUG) 4. L'école primaire par les manuels (1- La société française, ALMA) 5. L'école primaire par les manuels (2- La société française, ALMA) 6. L'école primaire par les médias (1- Le journal des enfants) 7. L'école primaire par les médias (2- Le journal des enfants) 8. L'école primaire par les médias (Quotidien 20 Minutes) 9. L'école primaire par les médias (Quotidien Le Parisien) 10. Le collège par les manuels (La France au quotidien, PUG) 11. Le collège par les manuels (La société française, ALMA) 12. Le collège par les médias (1- Quotidien Métro) 13. Le collège par les médias (2- Quotidien Métro) 14. Le collège par les médias (1- Quotidien Le Parisien) 15. Le collège par les médias (2- Quotidien Le Parisien)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sources multiples d' articles de journaux, de dialogues de films, de musiques, de publicités, etc. 新聞の記事や映画のダイアログ、歌や広告など、様々な資料を使用します。		評価方法 : L' évaluation s'effectuera par des devoirs de compréhension de texte. Nous demanderons de rendre trois devoirs sur des textes préparés à la maison et nous évaluerons aussi la participation et la lecture en classe. 授業への参加貢献度と3回の宿題によって評価。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	M. デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours, destiné aux étudiants de troisième et de quatrième année, vise principalement à développer les compétences de l' étudiant pour expliquer et comprendre un texte court en français d' un niveau relativement facile. Nous utiliserons des textes français qui montrent essentiellement le mode de vie quotidien et les problèmes sociaux que peuvent connaître les jeunes français actuellement, qu'ils soient étudiants ou non. Ce cours peut donc donner aux étudiants japonais une image concrète de leurs homologues français et leur faire découvrir les conditions de vie en France. このクラスは3・4年生向けで、比較的簡単で短めのテキストを理解し、説明できるようになることを主な目標とします。テキストは現代のフランスの学生やその他若者が直面している社会問題や日常生活について書かれたものを使用します。この授業を通して日本の学生達には同じ年代のフランス人達について具体的なイメージを持ち、フランスでの生活の状況を発見してもらいたいと思っています。		Au cours du second semestre, nous travaillerons sur des textes de longueur moyenne. Nous utiliserons, bien entendu, des articles de journaux simples comme ceux provenant de sources telles que le «Journal des enfants», «20 minutes», «Métro», «Le Parisien», etc. 1. Présentation du cours. 2. Le lycée par les manuels (1- La France au quotidien, PUG) 3. Le lycée par les manuels (2- La France au quotidien, PUG) 4. Le lycée par les manuels (1- La société française, ALMA) 5. Le lycée par les manuels (2- La société française, ALMA) 6. Le lycée par les médias (1- Quotidien Métro) 7. L'école primaire par les médias (2- Quotidien Métro) 8. L'école primaire par les médias (Quotidien Le Parisien) 9. L'université par les manuels (1-La société française, ALMA) 10. L'université par les manuels (2- La société française, ALMA) 11. L'université par les médias (1- Quotidien 20 minutes) 12. L'université par les médias (2- Quotidien 20 minutes) 13. L'université par les médias (Quotidien Métro) 14. L'université par les médias (1- Quotidien Le Parisien) 15. L'université par les médias (2- Quotidien Le Parisien)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sources multiples d' articles de journaux, de dialogues de films, de musiques, de publicités, etc. 新聞の記事や映画のダイアログ、歌や広告など、様々な資料を使用します。		評価方法 : L' évaluation s'effectuera par des devoirs de compréhension de texte. Nous demanderons de rendre trois devoirs sur des textes préparés à la maison et nous évaluerons aussi la participation et la lecture en classe. 授業への参加貢献度と3回の宿題によって評価。	

交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。		1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空の歴史（ライト兄弟から近代まで） 5. JALとANAの登場と成長 6. LCC（低コスト航空会社） 7. アライアンス 8. 航空産業の課題について（ディスカッション） 9. 航空政策とJALの破綻と復活 10. オープンスカイと規制緩和 11. 航空安全 12. 航空機製造ビジネス 13. 航空産業の特性と航空運賃 14. 空港、および国際航空法 15. 講義全体の“まとめ”	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト（教科書）：『最新・航空事業論』（2013年2月、日本評論社） （注）受講生は、事前に予習しておくことを薦める。		ディスカッションなど講義参画：30% 最終試験：70%	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
現代ツーリズムの発展は、旅行に関する諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることが出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、実際の現場の事例をもとに、ツーリズム産業の特徴と構造について理解を深めることを目指す。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を集中的に取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題とそれに対する取り組みを紹介する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。		1、ガイダンス 2、ツーリズム産業のしくみ 3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 5、ツーリズム産業の競争環境①：旅行業界 6、ツーリズム産業の競争環境②：宿泊・航空業界 7、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 8、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 9、パッケージツアー③：商品企画のマネジメント 10、ディズニー化論からみた観光①：空間の管理 11、ディズニー化論からみた観光②：ハイブリッド消費 12、ディズニー化論からみた観光③：感情労働 13、ツーリズム産業の将来 14、ツーリズムの終焉？ 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で紹介する。		授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%	

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
（歴史、戦争、記憶） 歴史、特に戦争の歴史がどのように表象され、記憶されてきたかを批判的に検証する。ミュージアムの展示や記念碑などが中心になるが、映画などのポピュラー・カルチャーにも言及する。 題材としては、John Ford監督『駅馬車』、ゴーストダンス・シャツの返還、スミソニアン・アメリカ美術博物館での『ウエスト・アズ・アメリカ』展（1991）、ワシントンDCのヴェトナム戦争記念碑、ヨーロッパにおけるホローコースト記念碑、スミソニアン・航空宇宙博物館で開催予定だった『エノラ・ゲイ』展（1995）、日本における戦争の展示、エイズ・キルト・プロジェクトなどを取り上げる予定。 英語の論文もいくつか読んでもらうので、覚悟して受講して欲しい。また、受講者には積極的な授業への参加が期待されている。		1 西部開拓という神話 2 西部開拓という神話 3 西部開拓という神話 4 ホローコーストの記憶 5 ホローコーストの記憶 6 ホローコーストの記憶 7 エノラ・ゲイの展示 8 エノラ・ゲイの展示 9 ヴェトナム戦争の記憶 10 ヴェトナム戦争の記憶 11 ヴェトナム戦争の記憶 12 日本における戦争の展示 13 日本における戦争の展示 14 日本における戦争の展示 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
藤原帰一『戦争を記憶する——広島・ホローコーストと現在』（講談社現代新書）、その他、論文の抜粋などは、講義支援システムを使って配布する。		学期末のレポートのほか、学期中に短いレポートを複数回提出してもらう。	

09 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。 一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。 このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。		1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」（re-localization） ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめと試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（90%）、学期中課題（10%）、授業内活動参加は＋α。	

09 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。 近年、alternative（もう1つの）という言葉が時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。 この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』		1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 5. 教育・学び・文化 6. ジェンダーとフェミニズム 7. 宗教と社会開発 NGO 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください （参考文献）上欄を参照。		期末試験（70%）、学期中課題（30%）、授業貢献（+α）。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。		- 趣旨説明 - グローバリゼーションの民族誌 1 - グローバリゼーションの民族誌 2 - 観光の誕生 - ビデオ上映 - 表象の政治学—情報資本主義と観光 - メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 - 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 - 文化装置としてのホテル - 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 - セックス・ツーリズム—タイの事例 - 少数民族と観光—タイの事例 - 文化の著作権と「サンタクロース民族」 - ダーク・ツーリズムの現状と可能性—広島および西アフリカの事例から - まとめ (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。 講義概要： オリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。		1. オリエンテーション 2. 国際会議・イベントの意義・役割とは？① 3. 国際会議・イベントの意義・役割とは？② 4. 国際会議・イベントの歴史 5. 祭り・フェスティバルと地域活性化 6. (ディスカッション) テーマ：イベント (各種イベント、大学祭等)の意義と役割 7. イベントを成功に導く秘訣とは？ 8. 国際会議・イベントの仕組みと実務 9. MICEとツーリズム 10. スポーツイベントについて 11. オリンピックの歴史・意義・役割について 12. プレゼンテーション：「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 13. 〃 ② 14. 〃 ③ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		・受講姿勢、小テスト、講義参画：70% ・プレゼンテーションとレポート：30%	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的とする。ツーリズム政策は、国家の主要政策の一つで世界各国において推進されてきたが、世界がグローバル化する今日その重要性がさらに高まっている。我が国は戦後主にモノづくり産業が牽引してきたことからツーリズム政策が必ずしも充分ではなかった。このような経緯も踏まえながら多様な視点からツーリズム政策を分析すると同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： ツーリズムは単にレジャーの領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション、また受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して学習を深めていく。		1. オリエンテーション 2. 世界の動き、日本の動き（東京オリンピック等） 3. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的①（観光立国など） 4. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的（インバウンドツーリズムの重要性など） 5. ツーリズム政策の変遷（鎖国時代から現代の“クールジャパン政策”まで） 6. ツーリズムにおける我が国の課題（国民文化等） 7. ディスカッション：ツーリズム政策について 8. 世界のツーリズム政策①（スイス、フランス等） 9. 世界のツーリズム政策②（シンガポール等） 10. 多様なツーリズム政策（世界遺産、地域振興策、グリーンツーリズム、メディカルツーリズムなど） 11. ツーリズムとキャリアデザイン 12～14. 新しいツーリズム政策についてのプレゼンテーション、ディスカッション 15. 講義全体の“まとめ”	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、小テスト、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げながら、ツーリズムと文化の動的な関係について考察する視座を得ることを目的とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげものの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。		1、ガイダンス 2、モノの移動・消費とツーリズム 3、観光みやげとは 4、観光みやげからみる近代 5、「民芸品」へのまなざし 6、観光みやげとオーセンティシティ 7、贈与交換としての観光みやげ 8、観光みやげの倒錯性 9、旅するマトリョーシカ 10、アジア雑貨観光の成立① 11、アジア雑貨観光の成立② 12、日本の観光地におけるアジア雑貨 13、観光みやげと伝統文化のマーケティング 14、観光みやげと文化的アイデンティティ 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で紹介する。		授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%	

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業と宿泊業（ホテル、旅館など）の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテルビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。さらに、旅行・宿泊産業のマーケティングを学習する。最後の「プレゼンテーション＋ディスカッション」では、旅行・宿泊産業への提案を各自パワーポイントを使って行い受講生全員でディスカッションを行う。		1. オリエンテーション 2. 旅行産業の歴史（トーマスクックの時代から） 3. 旅行産業の現状と課題 4. 旅行産業のビジネス概要と将来 5. 宿泊産業の概要（ホテルと旅館の違いなど） 6. ホテル経営（所有と運営の分離） 7. 旅行・宿泊産業における会計 8. リゾートホテル・ビジネス 9. 旅行・宿泊産業のマーケティング① 10. 旅行・宿泊産業のマーケティング② 11. 旅行・宿泊産業のマーケティング③ 12. プレゼンテーション＋ディスカッション① 13. プレゼンテーション＋ディスカッション② 14. プレゼンテーション＋ディスカッション③ 15. 講義全体の“まとめ”	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、講義参画：70% プレゼンテーションとレポート：30%	

13 年度以降 09～12 年度	交流文化論（ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論)） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	倉澤 治雄
講義目的、講義概要		授業計画	
「ツーリズム」と「メディア」、それに「国際社会」をつなぐ仕組みについて、具体例に徹して考察し、理解することを目的とする。 講義ではまず新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、それにインターネットなどのメディアとして特徴や役割、それに歴史について解説。 またジャーナリズムについても「公正の原則」など、基本的な考え方を紹介、現実の記事やニュースにどのように生かされているか検証する。 一方、「ツーリズム」と「メディア」の関係を、「集客のツール」としての視点ではなく、「表現の世界」まで踏み込んで考える。 「ツーリズム・メディア」が現実の国際関係、経済、芸術、歴史、文化にどのような影響を与えるか、また影響を受けるか考察する。 「ツーリズム・メディア論」は極めて学際的な概念であり、「論」として成立途上にある。 講義では「自分で考えること」を重視し、学生の皆さんに「独創性」を発揮してもらうよう、特定の教科書を使わず、新聞・雑誌記事やビデオ素材を活用して、「目」を磨いてもらう。 なお毎回授業の最後に「レジュメ」作成の実践を行う。		1.講義全体の概要 2.メディアの現状と課題 3.ジャーナリズム論 4.産業としてのメディア・コンテンツ業界 5.ツーリズムの基礎的な概念 6.「ツーリズム」と「メディア」の歴史的関係 7.東日本大震災とダークツーリズム 8.「国際関係」と「ツーリズム・メディア」 9.未開発の観光資源をめぐって 10.メディアの中の「ツーリズム」 11.アートの源泉～「ツーリズム芸術論」 12.地域活性化と「ツーリズム・メディア」 13.キュレーションの時代 14.「世界遺産」「メディア」そして「ツーリズム」 15.波乱の時代を生き抜くために - 戦争、紛争、貧困、テロ、格差、偏見、抑圧、環境破壊、高齢化、幸福の喪失、富の偏在など、人類共通の課題を解決するために何をしなければならないか、考える。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。適宜参考文献を紹介する。		期末定期試験	50%
		毎回行うレジュメ作成	50%

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	倉澤 治雄
講義目的、講義概要		授業計画	
「新聞やテレビは真実を伝えているのか」、「海外のメディアはどのように伝えているのか」、誰もが疑問に思っている。 事実、福島第一原発事故ではアメリカ軍から提供された汚染情報が政府に握りつぶされたため、住民の被害は拡大した。福島では地震・津波による被害者の数より、災害による避難等によるいわゆる「災害関連死」が上回った。 講義では、まず日本および各国のメディアの状況および「メディアと社会の関係」を概観する。 また、「公正の原則」「取材源の秘匿」「スポンサーとの関係」など、「ジャーナリズム」の基本原則について、英語の文献を含めて解説する。 その上で個別事例について、ニュースの伝え方がどのように内外で異なるか検証し、私たちが「真実」をつかむために何をしなければならないか考える。		1. 授業全体の概要 2. ネット時代のマスメディアの興亡 産業としてのメディアの構造変化 3. メディアの歴史 メディアが果たしてきた役割 4. ジャーナリズムの諸原則～「公正の原則」 CBS ニューススタンダードから抜粋 5. ジャーナリズムの諸原則～「スポンサーとの関係」 6. ジャーナリズムの諸原則～「記者の倫理」「取材源の秘匿」 7. 「秘密保護法」とジャーナリズム 8. 米国ネットメディアの視点 米国ではなぜネットメディアが成立したのか? 9. 中国のメディア規制と「日中関係」 メディアと国際関係の典型例を見る 10. 海外メディアは「原発事故」をどう伝えたか? 11. 日本のジャーナリズムの現状と課題 12. メディアと国際関係 13. スポーツジャーナリズムの光と影 14. メディア・ジャーナリズム教育をめぐる 15. 情報化時代を生き抜くために 「情報の目利き」を目指して!	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は使わない。適宜映像素材、新聞記事などを配布。		期末定期試験	50%
		毎回行う演習	50%

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の<u>実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の<u>可能性を考える</u>こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における<u>諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。 関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。		1. 講義の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス・鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社		期末試験（90%）、学期中宿題（10%）、授業内活動参加（+α）。	

13 年度以降 09～12 年度	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
地域開発論では、人づくり、開発にかかわる人々のコミュニケーションといったミクロの視点から、地域の開発を考えます。日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 地域づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「住民の参加」が望ましいのでしょうか。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。		1. 講義の概要 2. 地域とは何か、発展とは何か 3. 住民参加の意義と多義性 4. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ 5. 組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例 6. 地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例 7. 内発的發展と外来型開発 8. 共益から公益の創出へ：NY と東京の事例 9. ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』 10. 地域づくりとまなざしの多様性：島根県の事例 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例 12. ソーシャル・キャピタル 13. ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』（予定） 14. まとめ：地域開発と社会の持続可能性 15. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください		期末試験（80%）、学期中課題（20%）、授業内活動参加（+α）。	

09 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。		- 趣旨説明 - オルタナティブ・ツーリズムの背景 - ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） - 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 - 環境主義の商品化—エコリゾート - 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 - 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 - ビデオ上映（バックパッカーの窮状） - 先住民と観光—北米イヌイットの事例 - 先住民と開発—開発的遭遇 - 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 - 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として - まとめ （なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

2014年度

外国語学部共通科目シラバス

(2006年度以降入学者用)

06 年度以降	総合講座 （時空を行き交う知の変容 1）	担当者	コーディネーター 高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
講座の目的：人間の文化的営みが時代間や文化間において伝播し交流する様相を「知」の変容の観点から解明する 講座の内容：「知」は人間のさまざまな文化的営みから形成される。「知」を西洋的意味での学問的知あるいは科学的知に限定する必要はない。神話的・宗教的知もあるし、文学や批評、思想などの言語を媒体とする営みや過去の歴史の記憶も「知」を形成する。造形芸術や映画、また、演劇、音楽などのパフォーマンスも「知」の観点からとらえることができる。食文化などは「知」の結晶といっても過言ではなからう。「知」のヴァリエーションは多様だ。このような「知」は、異なる時代や異なる文化圏に、また異なる分野に受容されることで、変容する。学問すらも、それを文化現象のひとつとしてとらえるならば、異文化に移植されるときには変容するのがわかる。これらの「知」が過去から現在へという時間の次元において伝承され変容する様相（知の伝統）、さまざまな文化圏の間で時間や空間の隔たりを超えて伝播し変容する様相（知の異文化間受容）を、各担当者は、具体的な事例をもって明らかにする。		1. 高橋輝暁 「時空を行き交う知の変容 1」開講にあたって 2. 矢羽々崇 日本におけるグリム・メルヘンの受容 3. 柿田秀樹 メディアとしての視覚の変容 4. 田村 毅 海を渡る女神たち—地中海文化圏の拡大と神話の習合— 5. 若森栄樹 現代フランスの精神分析理論—ジャック・ラカンをめぐって— 6. 福田美雪 開かれたアーカイブス—フランス国立図書館— 7. 安井美代子 言語生得説に関する知の変容 8. 米沢 薫 論争によるドイツの自己認識の変容 1—ホロコースト記念碑論争（1988～2005）— 9. 米沢 薫 論争によるドイツの自己認識の変容 2—ベルリン宮殿再建論争（1989～2002）— 10. 上野直子 歴史、暴力、言葉の海へ 11. 阿部明日香 日ジャポニスム—ヨーロッパにおける日本の「美術」の受容— 12. 須永和博 時空を行き交う「日本文化」 13. 野澤丈二 近世におけるワイン文化のグローバリゼーション 14. 片山亜紀 スウィフトの『ガリヴァー旅行記』から宮崎駿の『天空の城ラピュタ』へ 15. 山本 淳 ブルーノ・タウトと日本	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】必要に応じてプリントを配付する。 【参考文献】必要に応じて授業中に紹介する。		毎回の講義の最後に当該講義内容に関して小論述等（15 分程度）を実施し、その総合点によって評価する。	

06 年度以降	総合講座 （時空を行き交う知の変容 2）	担当者	コーディネーター 高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
講座の目的：人間の文化的営みが時代間や文化間において伝播し交流する様相を「知」の変容の観点から解明する 講座の内容：「知」は人間のさまざまな文化的営みから形成される。「知」を西洋的意味での学問的知あるいは科学的知に限定する必要はない。神話的・宗教的知もあるし、文学や批評、思想などの言語を媒体とする営みや過去の歴史の記憶も「知」を形成する。造形芸術や映画、また、演劇、音楽などのパフォーマンスも「知」の観点からとらえることができる。食文化などは「知」の結晶といっても過言ではなからう。「知」のヴァリエーションは多様だ。このような「知」は、異なる時代や異なる文化圏に、また異なる分野に受容されることで、変容する。学問すらも、それを文化現象のひとつとしてとらえるならば、異文化に移植されるときには変容するのがわかる。これらの「知」が過去から現在へという時間の次元において伝承され変容する様相（知の伝統）、さまざまな文化圏の間で時間や空間の隔たりを超えて伝播し変容する様相（知の異文化間受容）を、各担当者は、具体的な事例をもって明らかにする。		1. 高橋輝暁 「時空を行き交う知の変容 2」開講にあたって 2. 工藤和宏 異文化体験に見る日本の若者の変容 3. 工藤和宏 留学生政策の変容と獨協大学の未来 4. 佐野康子 コーヒー発祥の国エチオピア—飲料文化の創造と変容— 5. 町田喜義 多文化主義に関する日本・韓国・カナダの比較 6. 白川貴子 翻訳にみる知の変容について 7. 米沢 薫 キリスト十字架像論争（1995）とイスラム教ベール着用論争（1998～）にみるドイツの自己認識の変容 8. 原 成吉 伝承バラッド“Lord Randal”とボブ・ディランの“A Hard Rain’s A-Gonna Fall” 9. 工藤達也 思考と比喩—ヘテロトピアとしての哲学— 10. 東郷公徳 ルネッサンスの暗号 11. 佐藤唯行 ユダヤ人、ユダヤ教 12. アダム・ザ・リンジャー 時空を行き交う『風神雷神』 13. 江花輝昭 ヌーヴェル・キュイジーヌ—フランス料理におけるジャポニスム— 14. 柿沼義孝 能の歴史と外国における受容 15. まとめと展望	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】必要に応じてプリントを配付する。 【参考文献】必要に応じて授業中に紹介する。		毎回の講義の最後に当該講義内容に関して小論述等（15 分程度）を実施し、その総合点によって評価する。	

06 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、戦前から今日までのヨーロッパ統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とする。 地域統合の歴史的な前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるであろう。		1. 講義の概要 2. 欧州統合前史 3. 両大戦間期の欧州構想(1) 4. 両大戦間期の欧州構想(2) 5. 第 2 次大戦と欧州統合 6. 戦後復興と欧州統合(1) 7. 戦後復興と欧州統合(2) 8. 欧州審議会の創設 9. 欧州石炭鉄鋼共同体の成立 10. 欧州防衛共同体構想と政治共同体構想 11. 欧州経済共同体の成立 12. 自由貿易圏構想 13. 欧州経済共同体の定着期 14. 統合の深化と拡大 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的な大実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

06 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、EU の制度や、欧州統合の「深化」に伴って生まれた EU 独自の政策や規制がどのようなものかを学ぶ。また、EU の「拡大」が加盟国間にどのような問題をもたらしたかについても確認する。 EU 誕生以降の話が中心となるため、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU 成立の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましい。		1. 講義の概要 2. 統合の「暗黒時代」から単一欧州議定書の成立へ 3. 単一通貨の導入に向けて(1) 4. 単一通貨の導入に向けて(2) 5. マーストリヒト条約以降の EU(1) 6. マーストリヒト条約以降の EU(2) 7. EU の機構 8. EU 共通農業政策 9. 共通農業政策の改革 10. EU の産業政策 11. EU の社会政策 12. 加盟国と EU：ドイツ、フランス、イギリス 13. 中東欧加盟国と EU 14. EU の課題 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		平常授業における小テスト（複数回実施、80%）と期末レポート（20%）	

06 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、コンピュータシステム、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		レポートの完成度と筆記試験の結果を併せて評価します。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

06 年度以降	[応用] 情報科学各論 (言語情報処理 1)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 言語情報処理 Ia では、「言語情報とは何か?」、「コーパス (=言語データ) とは何か?」、「言語情報処理とは何か?」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題 (Research question(s)) をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。 授業では、教科書 (下記参照) に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。 従って、品詞を英語で言える、センテンス構造を分析できるなど、基本的な言語学の知識を必要とします。また、「コンピューターの使い方を学習する」授業ではありませんので、その点も注意してください。 成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。 言語情報 Ia と Ib では、Ia の方が言語学的内容です。		1. 【ガイダンス】第 1 章「コーパス言語学への招待」 2. 第 2 章「コーパスとは何か」 3. 第 3 章「さまざまなコーパス」 4. 第 5 章「コーパス検索の技術」 - 第 6 章「コーパス頻度の処理」 5. 第 7 章「コーパスと語彙」(1) 6. 第 7 章「コーパスと語彙」(2) 7. 第 8 章「コーパスと語法」(1) 8. 第 8 章「コーパスと語法」(2) 9. 第 9 章「コーパスと文法」(1) 10. 第 9 章「コーパスと文法」(2) 11. プレゼンテーション準備 (1): RQ を検討 12. プレゼンテーション準備 (2): データ分析 13. プレゼンテーション準備 (3): 資料作成 14. 発表 (1) 15. 発表 (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
(使用テキスト) 『ベーシックコーパス言語学』 (石川慎一郎著 ひつじ書房)		毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)	

06 年度以降	[応用] 情報科学各論 (言語情報処理 2)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 言語情報処理 Ib では、「日本人英語学習者のコーパス (=言語データ)」を扱います。究極的な研究課題 (Research question) は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する (あるいはしない) 文法項目、誤り (error) などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかししてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が高い人に向いている内容といえます。 授業では、教科書 (下記参照) を参照しながら既存の学習者コーパスを分析する演習が中心になります。必ずしも言語情報処理 Ia を履修していなくても構いませんが、コンピューターの作業に慣れていることが望ましいです。 成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。		1. 【ガイダンス】第 1 章「コーパス言語学への招待」 2. 第 10 章「コーパスと学習者」(1) 3. 第 10 章「コーパスと学習者」(2) 4. 第 4 章「コーパスの作成」とデータ加工 5. 学習者コーパスの語彙分析 (1) 6. 学習者コーパスの語彙分析 (2) 7. 学習者コーパスの文法分析 (1) 8. 学習者コーパスの文法分析 (2) 9. 学習者コーパスの誤り分析 (1) 10. 学習者コーパスの誤り分析 (2) 11. プレゼンテーション準備 (1): RQ を検討 12. プレゼンテーション準備 (2): データ分析 13. プレゼンテーション準備 (3): 資料作成 14. 発表 (1) 15. 発表 (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
(使用テキスト) 『ベーシックコーパス言語学』 (石川慎一郎著 ひつじ書房)		毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)	

08 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む)</u>を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。		1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 総合課題 (2) 15 鑑賞・報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過等）で総合評価する。	

06 年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得の分配 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

06 年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政・金融政策の有効性① 9. 財政・金融政策の有効性② 10. 財政赤字と政府債務 11. 国際金融システム 12. 開放マクロ経済下の経済政策 13. 景気の循環 14. 経済成長の決定要因 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

06 年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		1. イントロダクション - 「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団から生まれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. 期末試験と振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。 なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。	

06 年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションとしての対人行動，対人行動としてのコミュニケーション 4. ソーシャルネットワーク：つながりが生み出すもの 5. 社会的交換(1)：互惠性 6. 社会的交換(2)：社会的ジレンマ 7. 集団による問題解決 8. 文化(1)：心の文化差はどのように生まれるか 9. 文化(2)：名誉の文化 10. 社会的感情：他者の前での様々な感情 11. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論・モデル 12. 健康行動と社会心理学(2)：HIV 感染予防のための社会心理学の挑戦 13. 社会心理学の未来 14. 期末試験と振り返り 15. 期末試験の解説とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。 亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。 なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。	

シラバス フランス語学科

2014年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	